

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県 大野市

自治体名：福井県大野市

担当課名：教育委員会教育総務課

電話番号：0779-66-1111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	872.43 km ²
人口	29,946 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	650 人
部活動数	15 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

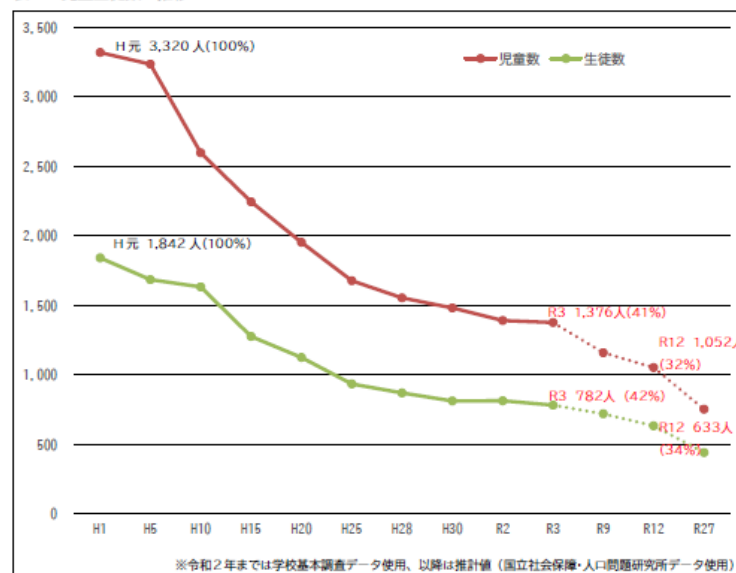
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

大野市では令和6年度に、中学校5校を2校に再編した。休日の部活動についても同じタイミングでの地域移行完了を目指し、学校での部活動に代わって生徒がそれぞれに適した環境で活動を行うことができるよう、地域におけるスポーツ活動環境の整備を段階的に進めてきた。令和4年度からサッカー、軟式野球、バスケットボールの3競技において実証を開始し、令和6年度にはバレーボール、卓球、バドミントン、ソフトテニス、陸上競技の5競技において休日の部活動を地

域クラブに移行し、休日に活動している常設部活動における休日部活動の地域移行が完了となった。

大野市の休日部活動の地域移行にあたっては、既存のクラブチームや各競技連盟・協会に各地域クラブ活動を運営していただいているが、各団体においては資金の確保や指導者の確保、固定された練習会場の確保（特に積雪のある冬場）などに課題がある。

表1 児童生徒数の推移

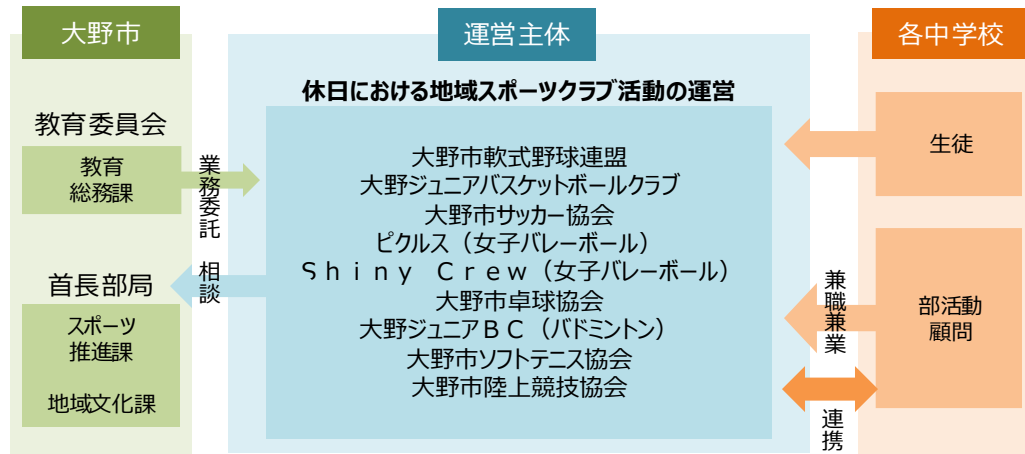


出典:大野市小中学校再編計画

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・教育総務課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について

◎首長部局

・スポーツ推進課…中学生の地域スポーツ活動の環境整備

年間の事業スケジュール

令和6年4月～	軟式野球、バスケットボール、サッカー、バレーボール、卓球、バドミントンの地域クラブ活動の実施
令和6年5月	第1回大野市部活動地域移行検討委員会の開催
令和6年9月	ソフトテニス・陸上競技の地域クラブが活動を開始 ・第2回大野市部活動地域移行検討委員会の開催
令和6年11月	・地域クラブへのニーズ調査（内容：スクールバスの利用）
令和6年12月～令和7年1月	中学1・2年生とその保護者へのアンケート（内容：休日部活動の地域移行）
令和7年2月	第3回大野市部活動地域移行検討委員会の開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	9 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		9 クラブ（15 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	39 人	全体の運営スタッフ数	44 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
大野クラブ (大野市軟式野球連盟)	競技団体	軟式野球	週 1 回	休日 8:30~11:30	1年生6人 2年生7人	令和6年 4月1日 ~令和7 年3月31 日	旧尚徳中学校グラウンド (冬季は市内体育館)	4 人	1 人	都度集金	地域クラブ
Axis (大野ジュニアバスケットボールクラブ)	地域のクラブチーム	バスケットボール	週 4 回	月・水 19:30~21:00 木 18:30~20:00 土 8:30~11:30	1年生10人 2年生15人 3年生9人	令和6年 4月1日 ~令和7 年3月31 日	開成中学校	8 人	8 人	月会費 (週4日) 3,500円 (週2日) 2,500円	中体連：参加していない その他：地域クラブ
大野シティジュニアユースフットボールクラブ (大野市サッカー協会)	競技団体	サッカー	週 3 回	平日 18:30~20:30 休日 随時	1年生12人 2年生20人 3年生5人	令和6年 4月1日 ~令和7 年3月31 日	真名川憩いの島 (冬季は市内体育館)	7 人	10 人	年会費 5,000円 月会費 3,000円	中体連：参加していない その他：地域クラブ
ピクルス	地域のクラブチーム	女子バレーボール	週 4 回	平日 19:00~21:00 休日 随時	1年生1人 2年生6人 3年生1人	令和6年 4月1日 ~令和7 年3月31 日	学びの里めいりん体育館	2 人	8 人	月会費 1,000 円	地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
Shiny Crew	地域のクラブチーム	女子バレーボール	週 3 回	平日 19:00～21:00 休日 随時	1年生1人 2年生4人	令和6年4月1日～令和7年3月31日	月：旧上庄中学校 木：陽明中学校	2 人	4 人	月会費 2,000 円	参加していない
大野クラブジュニア (大野市卓球協会)	競技団体	卓球	週 5 回	平日 19:00～21:00 休日 随時	1年生5人 2年生4人 3年生1人	令和6年4月1日～令和7年3月31日	エキサイト広場	3 人	3 人	月会費 1,000 円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
大野ジュニアBC	スポーツ少年団	バドミントン	週 5 回	平日 19:30～21:00 休日 随時	1年生5人 2年生9人	令和6年4月1日～令和7年3月31日	市内小中学校	5 人	7 人	年会費 6,000 円	中体連：地域クラブもしくは部活動 その他：地域クラブ
大野ソフトテニスクラブ (大野市ソフトテニス協会)	競技団体	ソフトテニス	週 1 回	9:00～12:00	1年生6人	令和6年9月7日～令和7年3月31日	明治公園テニスコート (冬季はB&G海洋センター体育館)	5 人	1 人	月会費 1,000 円	中体連：部活動 その他：参加していない
結アスリートクラブ (大野市陸上競技協会)	競技団体	陸上競技	週 1 回	9:00～11:00	1年生10人 2年生10人	令和6年9月14日～令和7年3月31日	奥越ふれあい公園 陸上競技場 ほか	4 人	2 人	年会費 1,500 円 1回あたり700円	中体連：部活動 その他：参加していない

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

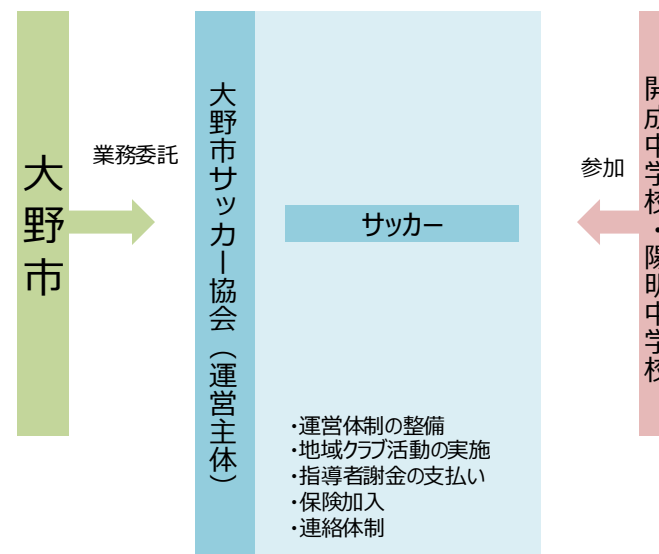
2.実証内容と成果

主な取組例

●大野シティジュニアユースフットボールクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	大野市サッカー協会
期間と日数	4月1日～3月31日 週4回程度
指導者の主な属性	社会人、教員（兼職兼業）
活動場所	夏季：真名川憩いの島グラウンド 冬季：旧尚徳中学校体育館
主な移動手段	自転車、徒歩 遠征時は所有バスと借上バス
1人あたりの参加会費等（年額）	41,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,450円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●運営スタッフ 10名

役割：会場・指導者の手配などの事務を行う

●指導者 7名

役割：競技の技術指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○大野市部活動地域移行検討委員会を、令和6年度に3回実施し、各団体間での意見交換・共有を行う。

○総括コーディネーターを配置し、関係団体との連絡調整・指導助言等を行う。

○運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の成果

○3回の大野市部活動地域移行検討委員会において、各団体から課題点を聴取し、課題の解決に向けた調整を行った。

○総括コーディネーターが関係者との必要な調整や助言を行い、予定していた時期にソフトテニス・陸上競技の地域クラブが活動を始めることができた。

○学校部活動および新たな地域クラブ活動のあり方等に関する方針を策定している。

コーディネーターの具体的な動きの実績

○中学校の部活動顧問や各競技団体・地域クラブ間の調整や助言を行い、ソフトテニス・陸上競技の地域クラブ立ち上げに向けての準備を後押しし、運営団体の体制整備に関わった。活動開始の際には、保護者説明会に同席し、保護者の理解を得ることに尽力した。

今後の課題と対応方針

○活動場所などの課題に対応し、中学生の地域におけるスポーツ活動環境整備をさらに進めるため、引き続き助言や調整を行う必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

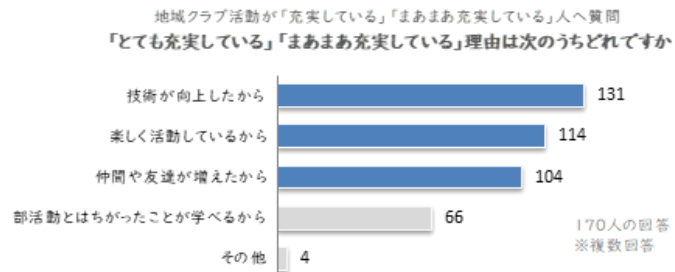
○大野市スポーツ指導者資格取得補助金制度を活用し、指導者の資格取得を促し指導者の質を保証する。

○福井県が設置した人材バンクを周知し、活用を促した。

取組の成果（イ）

○大野市スポーツ指導者資格取得補助金制度を活用し、1名が指導者の資格を取得した。

○生徒に実施したアンケートでも、回答した生徒のうち約80%が「技術が向上した」と回答している。



出典：休日部活動の
地域移行に関する生
徒・保護者アンケート
結果

取組事項（ウ）

○市、各競技団体・地域クラブや大野市スポーツ協会、学校と連携し検討を重ねる。

取組の成果（ウ）

○3回実施した大野市部活動地域移行検討委員会において、各団体から課題が提起された。その中で対応できるものから順次取り組んでおり、市内学校施設の備品の整備や使用料の減免に関する協議、遠征時のスクールバスの活用についての検討や、活動場所の固定化についての検討などを行った。

○大野市部活動地域移行検討委員会において、各地域クラブ間で情報共有を行うことで、他団体の体制を参考にして、それぞれの団体内の体制整備が図られた。

今後の課題と対応方針

○活動場所の固定化などの課題については、引き続き検討が必要となる。

○特設部活動として継続している柔道、剣道、相撲、水泳、スキーの競

技団体などと、地域移行の実現やこれからの活動方針について情報共有や協議を行っていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

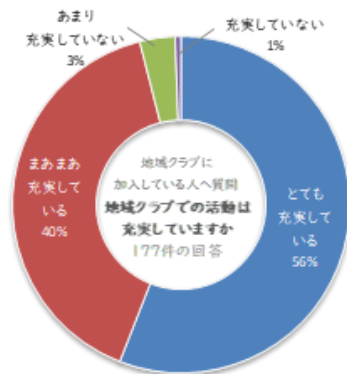
●取組項目名 エ：面的・広域的な取組 / カ：参加費用負担の支援等

取組事項（エ）

○学校再編により、市内2中学校となった。市内2中学校を対象とした運動部活動の地域スポーツ活動団体への移行を進める。

取組の成果（エ）

○少子化の影響で部員数が減り、単独校でのチーム結成が難しくなってきた部活動があったものの、市内中学校の部員が各地域クラブで活動することにより、チームを結成したり、団体での大会参加が可能となった。



出典：休日部活動の地域移行に関する生徒・保護者アンケート結果

取組事項（カ）

○地域文化活動に参加する困窮世帯に対して、必要な経費を支援する。

取組の成果（カ）

○就学援助の認定を受けた世帯の中学生が地域クラブに参加した場合、年間22,000円を上限に参加費用を支援した。

休日の部活動地域移行における地域クラブ参加費を助成します！

◇対象となる方
就学援助対象世帯（要保護・準要保護）のうち、対象となる地域クラブに参加する生徒（中学1～3年生）の保護者

◇対象クラブ
大野市ジュニアユースフットボールクラブ、大野クラブ（軟式野球）、大野ジュニアバスケットボールクラブ（バスケ）、みんすぽーるボール、奥越クラブ、ピクルス、シャイニークルー、大野クラブジュニア、大野ジュニア、大野市ソフトテニス協会、大野市陸上競技協会、大野市中学校軟式野球部

◇対象となる経費
参加費（月謝）、保険料、入会金、などの参加費用
※他にも、活動に参加するにあたってかかった費用は対象になる可能性があります。

◇年度の助成額（上限）
一人あたり 22,000円

◇申請方法
支払いがわかる書類を添えて、年度末に請求書を提出
※年度途中で引当する人は、引当のタイミングで申請
◇支払いがわかる書類の例
領収書、領収書のある集金簿のコピー、口座振込したことがわかる通帳の写しなど

◇注意事項
・休日の部活動地域移行の一環での助成のため、すべての活動が対象とはなりませんのでご注意ください。
・申請までの間、領収書などは大切に保管してください。領収書などの書類がない場合、助成の対象とならない場合がありますので、ご注意ください。
・この書類を保管・提出すれば良いか分からない場合、下記担当までご連絡ください。個別に相談させていただきます。

お問い合わせ先
大野市役所2階25番窓口 TEL 0779-66-1111
教育総務課

出典：参加費支援周知用チラシ

今後の課題と対応方針

○加入生徒数が伸びないことに悩んでいる地域クラブがある。地域クラブへの加入はあくまで任意であることなどを念頭に、どの程度学校部活動の顧問と連携して地域クラブへの加入を促すか、検討が必要である。

○参加費用の支援については、保護者等による申請が必須であるため、なるべく負担のかからない形での支援方法を検討する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項（キ）

- 施設利用申請にあたっては、予約システムからの申請が可能となった。
- 学校施設等の体育施設にスマートロックを導入した。

取組の成果（キ）

- 施設利用予約システムやスマートロックの導入により、利用者の利便性が向上した。
- 大野市公共施設使用料減免規則により、高校生以下が活動する場合の施設使用料が1/4に減免される。

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項（ク）

- 一部の部活動において、休日だけでなく平日も地域移行を行った。

取組の成果（ク）

- サッカー部においては、休日だけではなく平日も地域移行を行った。

今後の課題と対応方針

○来年度の途中から使用料の改定が予定されており、中学生の休日の地域活動を担う団体は使用料が免除となる予定であるが、それに伴い、た

くさん予約して予約をキャンセルする団体が出てくる可能性がある。その結果、予約したくてもできない団体が出てくる恐れがあるため、施設予約のルール整備を行う必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は、バレーボール、卓球、バドミントン、ソフトテニス、陸上競技の休日部活動が地域へ移行し、常設の休日部活動の地域移行が完了した。ソフトテニス・陸上競技の地域クラブ設立にあたっては、各中学校の部活動顧問や各競技団体、市教育委員会とで何度も協議を行い、スムーズに移行することができた。

生徒と保護者に向けたアンケートの結果では、生徒も保護者も「地域クラブでの活動が充実している」と回答した割合が多くなった。このことから、各地域クラブの尽力により生徒の望むような活動が展開されていることが分かる。費用負担についても、保護者からはおおむね理解を得られているようであり、各地域クラブが適切な金額設定となるよう工夫を凝らしていることがうかがえる。

今後もこのような状況を維持・向上させていくため、各地域クラブと連携して地域移行を進めていく必要がある。

●成果の評価

今年度はソフトテニス・陸上競技の地域クラブが設立され、当初の目標であった、常設部活動における休日部活動の地域移行が予定していたスケジュール通りに完了した。

アンケートの結果からは、地域クラブの尽力により、生徒も保護者もおおむね満足していく地域クラブ活動となっていることがうかがえる。休日の地域クラブ活動に参加していない生徒も、休日の時間を有効に活用していることがわかった。このことから、地域移行にあたっての目標である、休日は生徒それぞれが取り組みたいことに時間を使えるという状態に近づけていると考える。

一方で、アンケートには休日部活動の地域移行について十分理解が進んでいないという意見もあり、保護者や保護者以外の市民に向けても理解を得られるよう情報発信を続ける必要がある。

●今後に向けて

各地域クラブごとにそれぞれ課題があるため、市として解消できる課題について対応し、他の組織等に起因する課題については、当該団体へ課題の解消を求めていく必要がある。

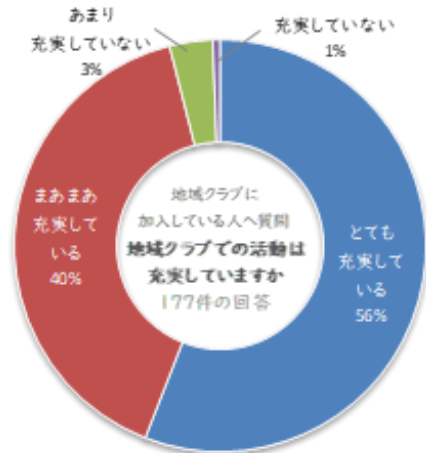
それぞれの生徒が、休日にやりたいことができる環境を整備するため、今後も各地域クラブや競技団体、学校及び各関係機関との調整や協議を行っていく。

2.実証内容と成果②

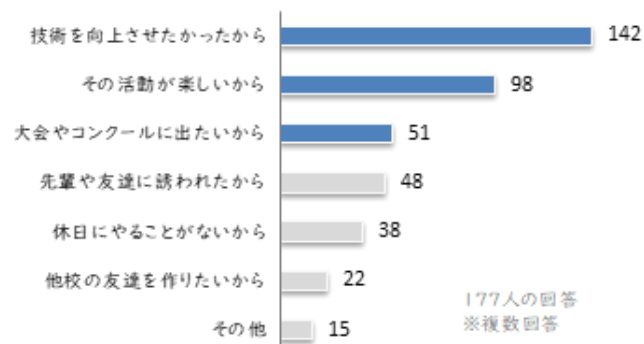
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

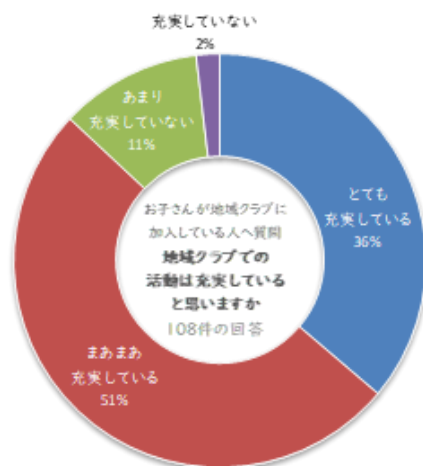
(生徒の回答)



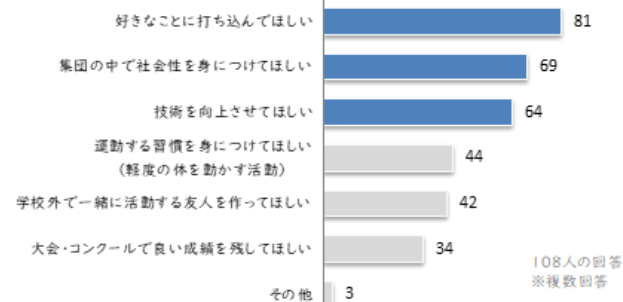
地域クラブに参加している人へ質問
地域クラブに参加した理由を教えてください



(保護者の回答)



お子さんが地域クラブに加入している人へ質問
地域クラブでの活動に期待することはありますか



●参加者の声

中学1・2年の生徒

- ・参加費が高い、安くして欲しい
- ・もっとゲームをしたい!!
- ・テスト期間中は、休みにしてほしい
- ・クリスマス会とかの楽しいイベントを開催してほしい
- ・がんばる
- ・トップでいたい
- ・上手い人に合わせて練習してほしい
- ・忘れ物を少なくしてほしい
- ・練習方法を変えて欲しい

中学1・2年の生徒の保護者

- ・活動内容をもっと充実させてほしい。試合が年々少なくなっている。
- ・週末の部活動がなくなる中クラブチームを作って下さり子供達を見ていただけるのはとてもありがたく思います。
- ・地域クラブでは、指導者の確保などの課題はあると思いますが、学校での部活動には先生方の負担があるので、地域クラブの充実には期待したいです。(本当は、学校の先生と部活動をして欲しいと思っています。)
- ・いずれかの中学校のグラウンドで、夕方の部活の時間帯にできれば望ましいのだと思います。活動時間が遅いのと、送迎はなかなか大変です。

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【軟式野球：冬の体力づくりトレーニング】



【サッカー：試合指導】



【バスケットボール（男子）：試合】



【バスケットボール（女子）：練習時】

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【ピクルス：試合中の作戦会議】



【Shiny Crew：練習風景】



【卓球：多球練習】



【ソフトテニス：練習風景】

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【バドミントン（男子）：試合中のミーティング】



【バドミントン（女子）：試合風景】



【陸上：ウォーミングアップ（ドリル）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

部活動顧問・
関係団体との
検討を開始

学校現場と地
域クラブとの調
整

生徒、保護者へ
の説明

地域クラブ活動
の開始

令和6年

地域クラブ活動
の拡大

休日部活動の地
域移行の完全実
施

●ステークホルダー

学校、各地域クラブや競技団体、
市教委

●経過

実践研究を実施する受け皿団体も
検討委員として参加し、活動状況
報告にてお互いの状況を確認しなが
ら実践研究を進めた。

●実施内容、工夫した点 等

団体競技は少子化により練習試合
が単独でできない状況になっており、
早急に校区を越えた広域での活動と
する必要があったため、受け皿団体
の理解が得やすく、お互い協力して
実践研究を進めることができた。

●ステークホルダー

学校、各地域クラブや競技団体、
市教委、総括コーディネーター

●経過

令和5年度より、総括コーディネー
ターを配置し、学校顧問と地域クラブ
と教育委員会の3者での協議の場
を設けた。

●実施内容、工夫した点 等

先行する3競技の実践研究や実証
事業を参考に、各競技団体と総括
コーディネーターが、競技ごとに個別に
協議を重ねた。その結果、残りの5競
技すべてにおいて受け皿団体が確保
でき、令和6年度より実証事業がで
きる体制が整った。

●ステークホルダー

学校、各地域クラブや競技団体、
市教委、総括コーディネーター

●経過

令和6年度の夏季大会終了後より、
休日の部活動を地域クラブ活動へ
完全に移行するため、休日に活動す
るすべての部活動の受け皿団体の
確保した。

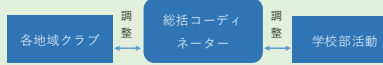
●実施内容、工夫した点 等

今年度新たに設立となった地域クラ
ブについては、各競技団体と市、学
校顧問間の協議を複数回もつことで、
スケジュール通りに活動を開始するこ
とができた。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

(国) 休日の部活動について令和5年度～令和7年度を『改革推進期間』と位置付け各種支援を実施

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
運動部3競技	R4 より引き続き実証事業を実施 【サッカー】 平日も休日も地域クラブに活動を移行 【バスケットボール】 休日の部活動に加え、より高度な技術指導を求める生徒が地域クラブで活動 【軟式野球】 段階的に地域クラブ活動へ移行するために4校合同部活動を実施、より高度な技術指導を求める生徒が地域クラブで活動	引き続き実証事業を実施 【サッカー】 地域クラブの活動を維持 【バスケットボール】 夏季大会以降、地域クラブでの活動 【軟式野球】 4月～夏季大会までは合同部活動、以後は地域クラブでの活動	平日は学校で活動 休日は地域クラブで活動 【令和7年度の検討予定内容】 実証事業で出た課題について（仮称）部会において協議を行い、整理と調整を行う。 ・地域クラブのスクールバス利用について、試行と検討 ・会場の確保や使用料について ・吹奏楽部の楽器や練習場所について ・特設部活動のあり方についての検討 ・平日部活動地域移行の可能性について検討 ・改革推進期間終了後の地域クラブの支援について検討	【目指す姿】 ◎地域におけるスポーツ・文化活動の環境整備を行うことで、学校に代わり地域で、生徒がそれぞれに適した環境で活動を行うことができるようにする。 ※検討委員会で地域クラブ活動の状況と課題を確認・整理し、地域クラブの活動が維持できるよう、教育総務課、スポーツ推進課、地域文化課が連携して、必要となる支援を検討する。 【働き方改革について】 休日の部活動地域移行前後における教員の部活動指導の比較（中学校全体） ■6月について比較（部活動指導が忙しい時期） ○時間外在校時間等時間（休日も含む）のうち部活動指導の時間 R4平均26時間28分 R6平均7時間36分 【平均：18時間52分の改善】 ○休日勤務（勤務の内容を問わない） R4平均勤務日数3.0日 R6平均勤務日数1.3日 【平均：1.7日の改善】 ■10月について比較（休日の部活動の地域移行完了前と後を比較） ○時間外在校時間等時間（休日も含む）のうち部活動指導の時間 R5平均9時間13分 R6平均3時間52分 【平均：5時間21分の改善】 ○休日勤務（勤務の内容を問わない） R5平均勤務日数1.4日 R6平均勤務日数0.4日 【平均：1日の改善】
運動部5競技	総括コーディネーターが各競技の協会等と学校顧問の間に入り、協議や調整を実施 	R6 より実証事業を実施 【バレーボール・卓球・バドミントン】 4月から移行 既存の地域クラブが受け皿となり、地域移行を実施 【陸上、ソフトテニス】 9月から移行 協会内で新たに地域クラブを立ち上げ、地域移行を実施		
吹奏楽部	R5 より実証事業を実施 段階的に地域クラブ活動へ移行するために、10月から月1回、3校合同部活動を実施	引き続き実証事業を実施 4月～文化祭、発表会までは、2校それぞれでの部活動文化祭・発表会（10月）以降は、地域クラブでの活動		
検討委員会等	検討委員会を開催（スポーツ推進課、地域文化課と連携） 第1回（5月） 【内容】 R5の各地域クラブの活動状況と課題の解消等 【参加者】 地域クラブ スポーツ協会 PTA連合会 中学校 第2回（11月） 【内容】 各種運動部及び吹奏楽部の地域移行の進捗状況 【参加者】 地域クラブ（吹奏楽加入） スポーツ協会 文化協会 PTA連合会 中学校 第3回（2月） 【内容】 R5実証事業の検証等 【参加者】 地域クラブ スポーツ協会 文化協会 PTA連合会 中学校	検討委員会を開催（スポーツ推進課、地域文化課と連携） 第1回（5月） 【内容】 R6の各地域クラブの活動状況 第2回（11月） 【内容】 R6の各地域クラブの活動状況と課題の解消等 第3回（2月予定） 【内容】 R6実証事業の検証等 【参加者】 地域クラブ（バレーボール、卓球、バドミントン、ソフトテニス、陸上加入） スポーツ協会、文化協会、PTA連合会、中学校	■検討委員会を開催（スポーツ推進課、地域文化課と連携） 第1回（5月） 【内容】 R7の各地域クラブの活動状況と課題の解消等 ⇕ 必要に応じて（仮称）部会を実施 第2回（1～2月） 【内容】 R7実証事業の検証等、R8の方針等について 【参加者】 地域クラブ（男子バレーボール加入） スポーツ協会、文化協会、PTA連合会、中学校 ■3課の担当者会議を実施 部活動の地域移行における課題を解決していくため、定期的に3課で担当者会議を実施する。 ※3課…（教育総務課、スポーツ推進課、地域文化課）	
コイデイ総括	・休日に活動するすべての部活動について学校と状況や地域移行に向けた課題を整理 ・先行する3競技の地域クラブの状況と課題の整理 ・吹奏楽部の実証事業に向け関係者との連絡調整 ・これから地域移行となる5競技について、各競技の協会に受け皿団体を依頼	運動部は夏季大会後、文化部は文化祭や発表会後に休日の部活動を行わず、希望する生徒が地域クラブでの活動にスムーズにシフトできるよう、個々の競技・吹奏楽ごとに地域クラブや学校を交えて協議を重ね、調整を図る。	■実証事業で出た課題の整理を行うために、関係機関の間の調整をする。 ・課題解消に向けた3課での担当者会議の実施、3課間の調整 ・特設部活動（柔道、剣道、相撲、水泳、スキーなど）の実施 団体との調整 ・地域クラブと学校、市間の調整 ・国、県、他市町村からの情報収集 ■地域移行の実施状況について、顧問等からききとり	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県 勝山市

自治体名： 福井県勝山市

担当課名： 教育総務課

電話番号： 0779-88-8111

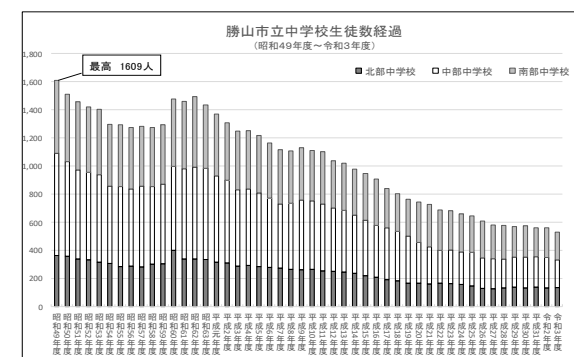
1.自治体の基本情報

基本情報

面積	253.88 km ²
人口	21,056 人 (令和6年12月末現在)
公立中学校数	3 校 (令和6年4月1日現在)
公立中学校生徒数	495 人 (令和6年5月1日現在)
部活動数	28 部活 (令和6年4月1日現在)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	—
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	—

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

勝山市は昭和43 年に開催された福井国体においてバドミントン競技が実施されたことをきっかけに、バドミントン競技が盛んとなり、オリンピックを輩出したり、全国中学校体育大会において優勝を飾るなど輝かしい成績を納めるなど、スポーツに対して非常に熱心な土地柄である。しかし、近年は人口減少に伴う生徒数の減少により成り立たない部活動も出てきている。今年度は勝山北部中学校において女子ソフトボール部が休部となったり、軟式野球部やサッカー部、バレーボール部などでは大会の出場のために合同チームを結成している。令和5 年度はバドミントン、バレーボール、陸上競技において地域移行を先行的に実施していたが、他の自治体例に漏れず、指導者不足が叫ばれている。この点については、核となる移行を受け入れる団体が存在しないため、個別に競技団体に依存している現状がある。また、部活動は学校がするものという認識が強いため、地域移行に関する保護者の抵抗感が少なからずあるのではないかとされる。なお、令和9 年4 月開校を目指して3 中学校を統合する新中学校の準備を進めている。



中学校生徒数の今後の推移見込み

令和4 (2022) 年度													令和5 (2023) 年度			令和6 (2024) 年度			令和7 (2025) 年度			令和8 (2026) 年度			
	北部	中部	計	学級	学年	北部	中部	計	学級	学年	北部	中部	計	学級	学年	北部	中部	計	学級	学年	北部	中部	計	学級	学年
中1	73	61	41	175	7	68	65	39	172	8	54	65	45	164	7	62	63	43	168	6	60	58	30	148	5
中2	60	62	44	168	6	79	68	44	189	8	68	65	39	172	8	54	65	45	164	7	62	63	43	168	6
中3	73	66	36	175	7	62	65	44	171	7	79	68	44	189	8	68	65	39	172	8	54	65	45	164	7
計	206	189	121	818	20	209	194	127	835	20	201	196	126	826	22	184	193	127	804	21	176	186	116	498	20
学級	8	6	4	20		9	8	6	23		8	7	6	23		7	6	4	21		8	7	5	18	
学年	25.8	31.5	20.2	25.8		26.1	21.8	21.2	23.1		25.1	21.8	21.3	22.8		26.3	24.1	21.2	24.0		29.3	26.6	23.6	26.7	

	令和9 (2027) 年度			令和10 (2028) 年度			令和11 (2029) 年度			令和12 (2030) 年度			令和13 (2031) 年度		
	北部	中部	計	北部	中部	計	北部	中部	計	北部	中部	計	北部	中部	計
中1	59	56	155	60	62	31	153	5	54	63	41	158	6	41	51
中2	60	58	148	59	56	40	155	6	60	62	31	153	5	54	63
中3	62	63	43	168	6	60	58	30	148	5	59	56	40	155	6
計	181	177	113	471	179	176	101	456	172	181	112	469	155	176	120
学級	8	6	5	17	8	6	5	18	8	6	5	17	8	6	5
学年	30.2	29.5	22.6	27.7	29.8	29.3	25.3	28.9	28.8	30.2	22.4	27.4	28.6	29.3	24.0

	令和14 (2022) 年度			令和15 (2023) 年度		
	南部	中部	計	南部	中部	計
中1	37	56	28	122	5	47
中2	49	56	28	133	5	37
中3	41	51	48	140	6	48
計	127	163	105	398	133	167
学級	6	6	4	16	6	3
学年	21.2	27.2	28.3	24.7	22.2	27.8

凡例
 ■ 1学年1学級を示す
 ■ 熊本市立中学校生徒数を示す

※令和4年度までは学校基本調査、令和5年度以前は住民基本台帳の人数をもとに算出しています。生徒数や学年が変更可能性があります。

※令和5年度からは特別支援学級の生徒も含まれるため、実際の普通学級数は異なる可能性があります。

凡例

・1学年1学級を示す

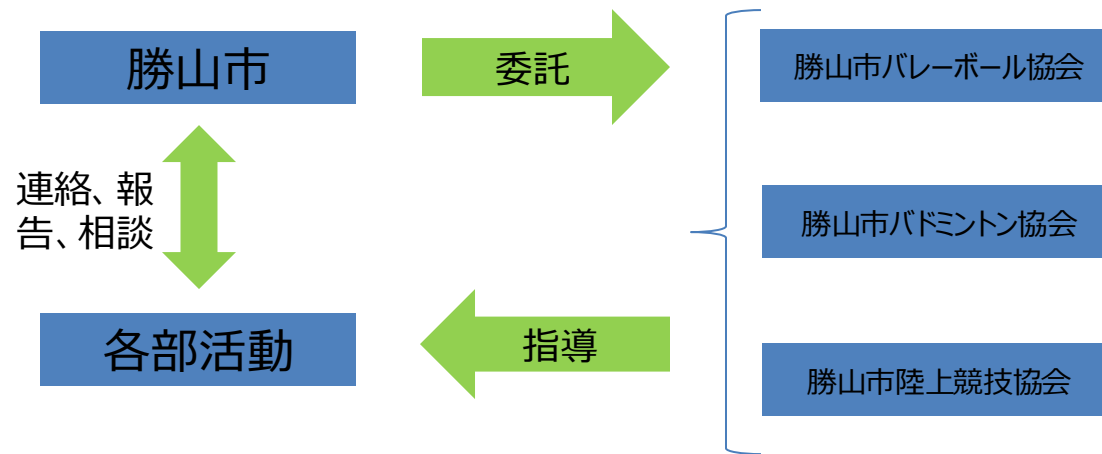
・勝山市立中学校生徒数を示す

勝山市立中学校再編計画より

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・事務の総括、学校との連絡調整

◎首長部局

- ・各種スポーツ団体との連絡調整

年間の事業スケジュール

令和6年4月	・各競技団体と地域移行に関する打合せ ・各競技団体において参加者等への説明 ・3競技において事業実施
令和6年5月	・各競技団体の活動内容視察
令和6年8月	・中学校部活動についての意見交換会
令和6年9月	・勝山市地域スポーツ・文化活動ワーキングチーム会議
令和6年10月	・勝山市中体連臨時理事会
令和6年11月	・地域移行対応可能団体の洗い出し（R7年度以降）
令和6年12月	・勝山市地域スポーツ・文化活動ワーキングチーム会議
令和7年1月	・次年度以降の活動体制について聞き取り（国実証実験希望団体）
令和7年2月	・R6年度実績報告

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	3 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（3 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	2 4 名	全体の運営スタッフ数	2 4 名

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは 末尾に（新）を 付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
勝山市バドミントン協会	地域スポーツ団体	バドミントン	週 1 回 (土曜日中心)	13時～ 16時	1年 9名 2年 12名 3年 13名	5月～ 2月	勝山南部 中学校体育館 等	15 名	15 名	無料	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
勝山市バレーボール協会	地域スポーツ団体	バレーボール	週 1 回 (土曜日中心)	9時～ 12時	1年 7名 2年 12名 3年 10名	4月～ 2月	勝山南部 中学校体育館 等	3 名	3 名	無料	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ
勝山市陸上競技協会	地域スポーツ団体	陸上競技	週 1 回 (土曜日中心)	9時～ 12時	1年 5名 2年 2名 3年 5名	4月～ 2月	大野市ふれあい公園 等	6 名	6 名	無料	中体連：部 活動 その他：地域 クラブ

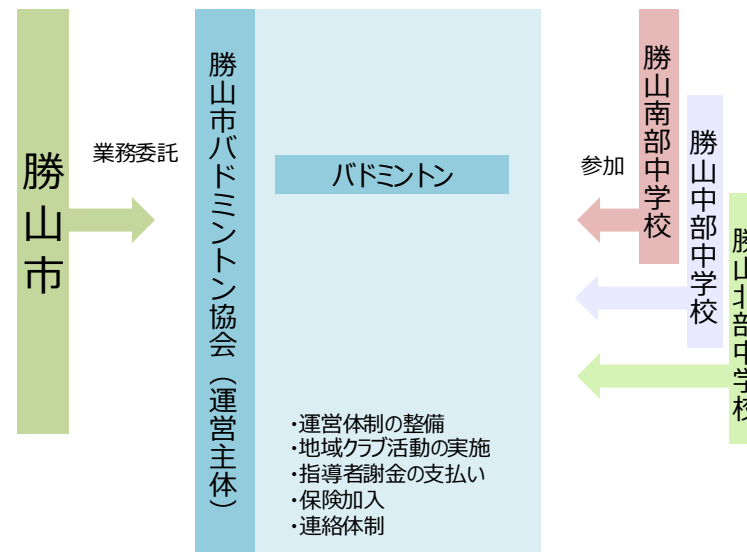
2.実証内容と成果

主な取組例

●勝山市バドミントン協会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン
運営団体名	勝山市バドミントン協会
期間と日数	4月6日～2月8日（週1回程度）
指導者の主な属性	協会員、教員、大学生
活動場所	勝山南部中学校体育館
主な移動手段	各自現地集合
1人あたりの参加会費等（年額）	無料
1人あたりの保険料	無料 ※スポーツ協会が掛ける保険で代用

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

記入例：

●統括責任者

役割：活動における管理者として、実施日の確定、会場確保、指導者の調整

●主任指導者 2名

役割：指導者と練習内容を整理し、学校や参加者（保護者）と調整行う

●指導者 13名

役割：主任指導者の指導計画を元に生徒の指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・生徒や保護者への連絡体制の確立
- ・指導者との連絡体制の確立
- ・運営団体の整備等

取組の成果

- ・メールやLINE等を活用した生徒や保護者への連絡体制を構築できた。
- ・指導者間についても上記と同様な連絡体制を構築できた。
- ・運営団体については従来からあるバドミントン協会が担っており、これまでにジュニア育成等の事業を実施しており、その際に構築した実績に基づき運営できた。

今後の課題と対応方針

- ・連絡がなく休む生徒もいたため、個別の連絡方法だけではなく、掲示板方式等、多くの者が確認できるような連絡体制の構築を考えたい。
- ・指導者に関しては、仕事の関係等で急に来られなくなる者もあり、時間ギリギリに指導者を入れ代えることもあった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

・生徒の参加人数も多いので、常に複数の指導者を配置し、個々のレベルにあった指導体制の構築を図った。

取組の成果

・各協会員のネットワークにより大学生や社会人の指導者を確保した。
・勝山市のバドミントン競技においては過去に全中制覇などの実績があり、地域スポーツとしての地位を確立しており、市内・県内に出身者が多く、それらのネットワークを活用した。

今後の課題と対応方針

・特に1年生では参加者のレベルに思った以上の開きがあり、指導がその生徒に集中してしまい、なかなか他の生徒に手が回らない時があった。
・指導者も仕事の関係上、毎回練習に参加できるわけではなく、生徒の希望とその日の指導者のマッチングが難しい時もあった。
・今後は時間に余裕のある年代にも声をかけて指導に参加してもらうことや、高校生年代との練習なども取り入れていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・スポーツ少年団や高校年代との交流を図る。
- ・施設の利用など連携を図る。

取組の成果

- ・スポーツ少年団や高校年代との交流については実施できなかった。
- ・施設の利用については、基本的には中学校体育館を使用しているが、他の活動動との日程調整もスムーズに行うことができた。
- ・市営施設についても部活動としての使用に準ずるということで使用料の免除などの措置を実施してもらえた。

今後の課題と対応方針

- ・今年度については縦のつながり（異年齢層との交流）が実施できなかった。指導者の中には普段スポーツ少年団等で指導する者もいるので、それらの団体との連携も図りたい。
- ・県立勝山高校はバドミントンの強豪校であり、2年後にはその敷地内に統合する中学校を建設する予定となっているので、今の内から中高生の連携を図ることは重要だと考えている。
- ・施設の利用については、生徒数の減少などにより学校体育館の利用時間には余裕があったので日程調整はスムーズに行えたので特に問題はなかった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

・それぞれ違う学校から参加していることもあり、当初は基礎技術の向上と基礎体力の向上、及び参加者が仲良くなるための指導を中心に実施した。

・ある程度基礎が固まってからは、参加者のレベルに分けて指導を実施した。

・シングルスだけではなく、ダブルスの指導も実施した。

活動の詳細			
参加人数	34人	指導者数	15人
属性	バドミントン競技		
具体的な内容	バドミントン競技の指導 ・基礎練習 ・ゲーム形式の練習 ・基礎体力の向上		
参加者の声	● 違う学校の仲間と一緒に練習できたことがうれしかった。大勢で練習できて良かった。 ● 違う学校の子や、違う学年の子ともペアを組んで練習したり、対戦したりなどして楽しかった。 ● 教えてくれる人が丁寧に教えてくれた。いろいろな意見を聞いてよかった。 ● 午後からの練習だったので、宿題などの用事を片づけてから参加できてよかった。 ● 参加者のレベルが高い人もいて、ついていくのに苦労した。		
関係者の声	● 最初は参加者のレベルがまちまちで、指導にも戸惑ったが真面目に参加してくれる生徒が多く、参加者の多くが一定のレベルまで達することができた。（指導者） ● 教員でない指導者に対しても挨拶などがしっかりできていて良かった。（指導者） ● 生徒が学校の区別なく、異学年とも仲良く活動していたので指導しやすかった。（指導者） ● 送迎が大変こともあった（保護者）		
運営経費	運営経費に関しては国委託金及び県補助金、市委託金で賄った		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

・活動場所として学校施設を有効活用する。

取組の成果

・施設の利用については、基本的には中学校体育館を使用しているが、他の活動動との日程調整もスムーズに行うことができ、基本的に勝山南部中学校体育館で活動できた。
・施設の利用に関しては社会体育団体と同様とし、外部玄関から入ることによって教員が会場準備等をしないですむように配慮した。

今後の課題と対応方針

・施設の利用については、生徒数の減少などにより学校体育館の利用時間には余裕があったので日程調整はスムーズに行えたので特に問題はなかった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

・改革推進期間終了後を見すえた取組を考察する。

取組の成果

・令和8年度夏以降は完全に休日の部活動は停止することを市全体として決定した。
・令和8年度夏以降は部活動という枠ではなく、放課後活動という名目で取り組むこととする。
・勝山高校やスポーツ少年団など異なる世代の活動との協力体制の構築はできなかったが、小学校－中学校－高校という育成の大切さについては内部検討した。

今後の課題と対応方針

・休日の部活動だけではなく、平日の活動をどのようにするか検討が必要。
・部活動という枠にとらわれないように、中体連加盟種目だけではなく幅広い活動ができるよう、市内で活動する様々な団体との連携が必要。
・中学校が統合すれば勝山高校の敷地内に校舎ができるので、部活動においても高校と連携した活動が期待できる。また、スポーツ少年団などとの連携についても強化したい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

バドミントン競技は昭和43年に開催された第23回国民体育大会において、勝山市が競技会場となったことにより競技人口が増え、強化も進んだ。

過去には、全日本選手権（シングルス・ダブルス）優勝者である長谷川博幸氏や東京・パリオリンピックに出場した山口茜選手を輩出しており、中学生年代においても平成17年には勝山南部中学校が団体で全中優勝するなど「バドミントン王国」であった。

近年は少子化により部員数も減少傾向にあるが、小学生年代ではバドミントンのスポーツ少年団活動が盛んであり、また「バドミントン王国」世代の指導者が活動しているこのタイミングで中学生年代のバドミントン競技を盛り上げることによって、小さな町でも競技が継続でき、将来につなげることができるような体制の確保を目指した。

今年度もバドミントン競技の地域移行に関しては34名の参加登録があり、市内にある運動部活動の中では非常に多くの参加者を集めることができた。

●成果の評価

- ・参加者は多く、参加率も非常に高かった。（実証実験実施期間を通じての参加率は84%）
- ・指導者においても市内外からバドミントン経験者で高校年代等で全国大会を経験したメンバーを集めることができ、技術的には高度な指導が実施できた。
- ・初心者から参加した生徒もいたが、丁寧な指導を心がけたので続けて参加してくれ、平日の部活動においても積極的に活動しているとの報告を顧問から受けた。
- ・中学校を卒業してもバドミントンを続けるため、地元の勝山高校に進学する生徒が多かった。

●今後に向けて

- ・次年度以降も地域移行に向けた活動に取り組むにあたり、統括責任者等のお世話をする人間の若返りを図りたい。
- ・指導者の確保に関しても大人世代だけではなく、地域移行を経験した高校生などにも今後協力を求めたい。

2.実証内容と成果②

参考資料（活動写真）



【多球練習】



【学校の枠を越えたダブルス練習】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校、スポーツ協会、競技団体、市長部局、市教委

●経過

令和4年度末に国の実証実験を受けるにあたり、各種スポーツ団体や学校現場と相談したが、土台となる総合型地域スポーツクラブがなく新たに立ち上げるのは困難であった。しかし、勝山市スポーツ協会では各団体に補助金を出し、小中学生年代のスポーツ普及・強化活動を実施していた実績があったので、その手法を拡充する方法で地域スポーツクラブ活動の端緒とすべく検討したところ、単一競技ではあるがバドミントン、バレーボール陸上競技の各協会が実施に手を挙げてくれた。

●実施内容、工夫した点 等

令和9年度の中学校統合（3校→1校）に向け、学校間の垣根を越えた活動については望むところであり、特にバドミントンについてはオリンピック選手も排出するなど、過去から人気の部活動でありその競技団体が手を挙げてくれたことは非常に喜ばしいことであった。令和5年の地域移行のこけら落としには実業団選手を呼び生徒の興味を誘った。また、地域クラブ

の活動に当たっては市営施設の使用料を学校利用と同じとし、減免の措置を取るなどし、クラブが活動しやすい環境の整備も行った。

●実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、指導者を集めることが最も難しい。また、保護者も部活動と地域スポーツクラブの違いを理解いただけず、学校へ問い合わせをすることなども見受けられた。

また、団体種目によっては指導者と保護者の意見が合わず活動を開始したが、1年間で活動停止に至ったクラブもあった。

●今後の展開

令和8年秋からは、市内すべての中学校において休日の部活動を実施しない予定である。本格的にスポーツを追及するようなクラブだけではなく、楽しんで活動できるように平日から部活動という名称ではなく放課後活動として様々な体験ができるよう工夫したい。そのためにスポーツ協会だけではなく、スポーツ少年団や文化協会などとも連携し、様々な活動の展開を実施していく。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	目指す姿
県	ガイドラインの改定				○ 中学校統合に合わせた生徒の放課後活動の確保 ○ 地域スポーツや地域文化の新たな担い手として中学生に活躍の場を設ける ○ 学校現場の働き方改革の実施
市	地域移行実証モデル開始 学校、団体との連携・協議 運営経費の確保 参画団体の確保 情報の提供	地域移行実証モデル継続 学校、団体との連携・協議 運営経費の確保 参画団体の確保 情報の提供	地域移行実証モデル拡充 学校、団体との連携・協議 運営経費の確保 参画団体の確保 情報の提供	休日の部活動の停止 学校、団体との連携・協議 運営経費の確保 参画団体の確保 情報の提供	
学校	行政、団体との連携・協議 団体と共同した指導	行政、団体との連携・協議 団体と共同した指導	行政、団体との連携・協議 団体と共同した指導 余暇としての教員の指導 生徒・保護者からの意見徴収	行政、団体との連携・協議 団体と共同した指導 余暇としての教員の指導 生徒・保護者からの意見徴収	
団体	行政、学校との連携・協議 実証実験の実施	行政、学校との連携・協議 実証実験の実施 団体間の情報交換 自主運営に向けた検討	行政、学校との連携・協議 実証実験の実施 団体間の情報交換 自主運営に向けた検討	行政、学校との連携・協議 実証実験の実施（参画団体の拡充） 団体間の情報交換 自主運営に向けた検討	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福井県 鯖江市

自治体名： 福井県鯖江市

担当課名： 学校教育課 スポーツ課

電話番号： 代表 0778-53-2260

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	84.59 km ²
人口	68,302人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	2,059人
部活動数	(運動部) 44部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

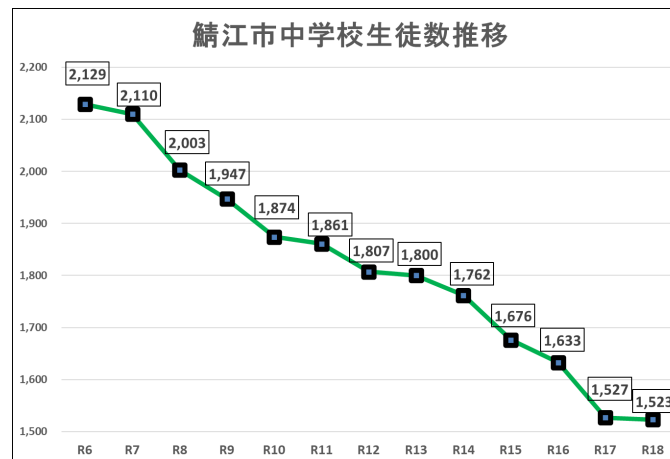
2024.12.1現在

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在の本市地域移行の取組は、令和3年度より国のモデル事業を実践を通して、令和4年度に協議会を設置し、中学校区にある総合型地域スポーツクラブを運営団体・実施主体とすることとした。また、基本方針において、令和5年度から7年度までを学校部活動と地域クラブ活動の併存期間とし、令和8年度に本格開始できる体制づくりに努めることとし、活動拠点は中学校施設、市内施設も活用した準備期間とすることを決定し、休日に活動している部活動の地域移行が生徒や保護者に混乱や支障なく取り組めるよう準備している。

市内中学校は、大規模校2校と中規模校1校であり、現状では生徒のニーズに対応できているが、今後の少子化に向けての取り組みや生徒の多様化への対応、運営基盤の確立の観点から、3つの総合クラブの年会費の統一、合同保険加入を実践し、現在、運営団体が市全体で運営できる体制づくりの協議を始めた。

総合クラブは会費が必要であるのに対し、学校部活動が無償であったこと、平日と休日の指導者が変わることに不安など、長年続いた部活動からの変化に戸惑いのある保護者への周知を継続して行う必要がある。



出典：鯖江市教育委員会資料抜粋

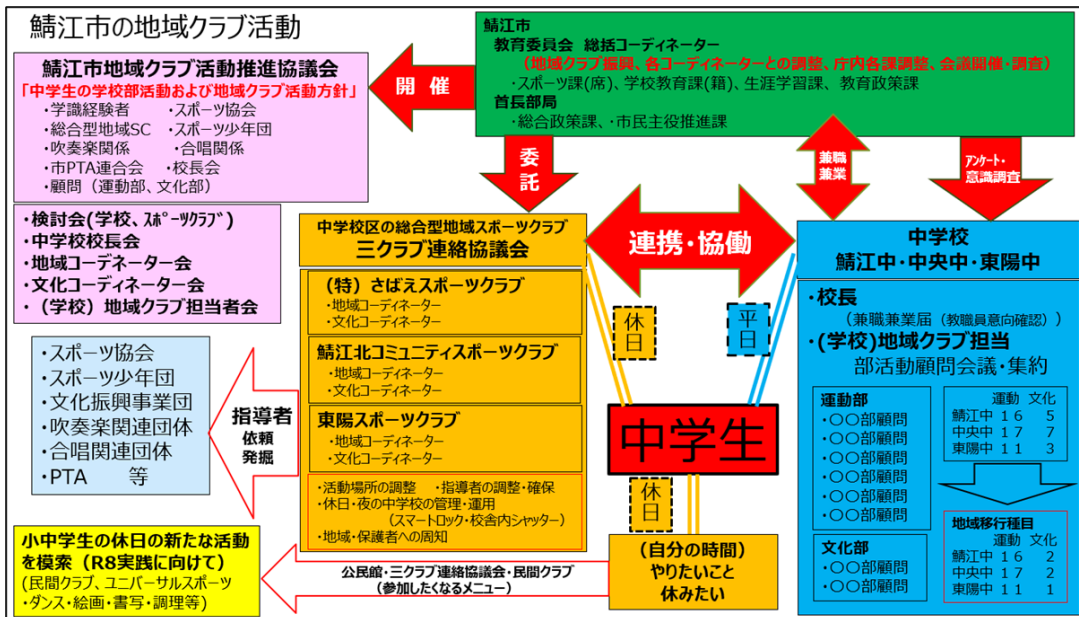
【課題】

- 指導者の質の保証と量の確保
- 地域や保護者への周知（受益者負担）
- 持続可能な活動にするため
 - ・新たな会費設定（R7見直し予定）
 - ・市内総合クラブの運営基盤の確立
 - ・少子化に伴う対応

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・スポーツ課 …総合型地域SC、学校開放、公認指導者関連
- ・学校教育課…学校部活動、兼職兼業関連、地域クラブ活動ホームページ
- ・生涯学習課…公民館活動（社会教育全般）
- ・教育政策課…学校施設整備、管理

◎首長部局

- ・総合政策課…スポーツSDGs（指導者研修会）
- ・市民主役推進課…JK課（高校生との関連）

年間の事業スケジュール

令和6年 4月	中学校長会 （学校）地域クラブ担当者会 地域・文化コーディネーター会
令和6年 5月	三クラブ連絡協議会
令和6年 6月	三クラブ連絡協議会 中学校長会
令和6年 7月	（学校）地域クラブ担当者会 地域・文化コーディネーター会 三クラブ連絡協議会
令和6年 8月	三クラブ連絡協議会
令和6年 10月	中学校長会 三クラブ連絡協議会
令和6年 11月	（学校）地域クラブ担当者会 文化コーディネーター会
令和6年 12月	三クラブ連絡協議会
令和7年 1月	（学校）地域クラブ担当者会 文化コーディネーター会
令和7年 3月	地域クラブ活動推進協議会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3 校	実施した地域クラブ総数	4 4 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		4 4 クラブ（4 4 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	1 5 9 人（併存期間、兼職兼業含）	全体の運営スタッフ数	5 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方法
（特非） さばえスポーツクラブ	総合型 地域 スポーツ クラブ	陸上、バレーボール（男・女）、バスケットボール（男・女）、ソフトテニス（男・女）、柔道、剣道、軟式野球、卓球（男・女）、サッカー、新体操（男・女）、ホッケー	月 4 回	9:00～ 17:00 約3時間	中学生 （1～3）	4月～3月	・鯖江中学校 体育施設 ※大規模改修により9月より仮校舎体育施設 ・社会体育施設	7 0 人 内兼職兼業 （3 3 人）	3 人	年会費 6,000 円 保険料別	中体連 ：部活動 その他 ：地域クラブ
鯖江北コミュニティスポーツクラブ	総合型 地域 スポーツ クラブ	陸上、バレーボール（男・女）、バスケットボール（男・女）、ソフトテニス（男・女）、柔道、剣道、軟式野球、卓球（男・女）、サッカー、水泳、体操（男・女）、バドミントン			（陸上） 小学生・高校生参加 （剣道） 小学生参加クラブ有		・中央中学校 体育施設 ・社会体育施設	5 7 人 内兼職兼業 （3 4 人）	1 人		
東陽スポーツクラブ	総合型 地域 スポーツ クラブ	陸上、バレーボール（女）、バスケットボール（男・女）、ソフトテニス（男・女）、柔道、剣道、軟式野球、卓球（男・女）					・東陽中学校 体育施設 ・社会体育施設	3 6 人 内兼職兼業 （1 4 人）	1 人		

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 生徒企画イベントの開催
 - ・サバーフェスティバル（大規模改修前の校舎を利用してのイベント開催）さばえスポーツクラブ
 - ・その他生徒企画イベント開催に向け、企画委員募集 ⇒ 応募者なし

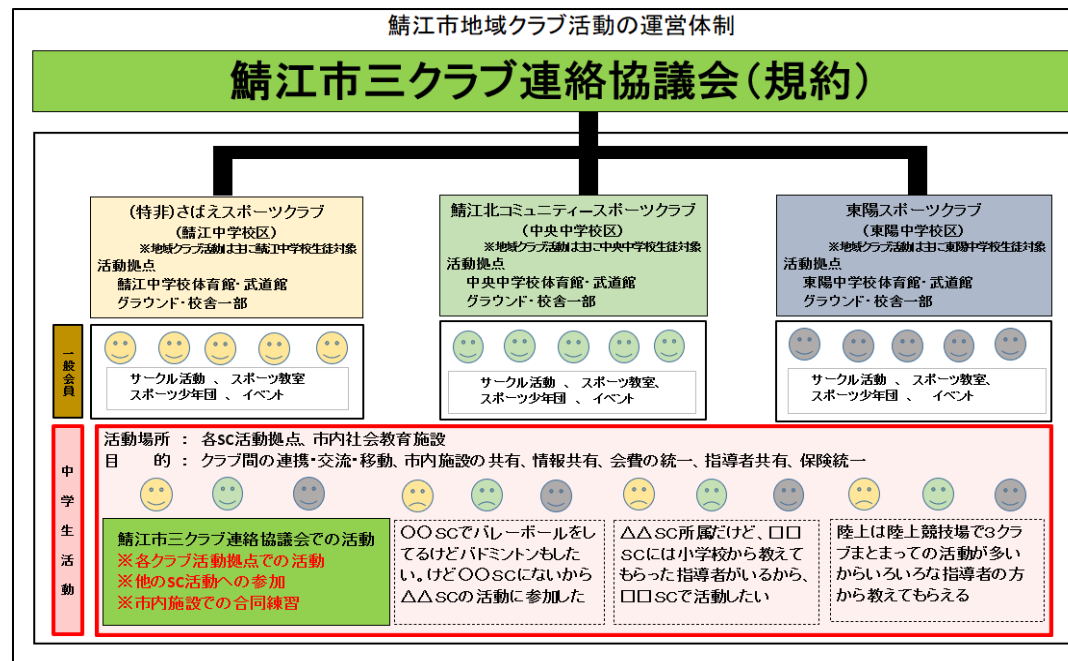
2.実証内容と成果

主な取組例

●三クラブ連絡協議会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、柔道、剣道、軟式野球、卓球、サッカー、体操、新体操、サッカー、水泳、ホッケー
運営団体名	鯖江市総合型スポーツ三クラブ連絡協議会 ※組織再編、JSPO認証クラブを目指す (特非)さばえSC、鯖江北CSC、東陽SC ※三クラブともJSPO登録クラブ
期間と日数	全種目：令和6年4月6日 ～ 令和7年3月30日 月4回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ指導者 兼職兼業（教員）
活動場所	中学校体育施設 社会体育施設
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	年会費 6,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人：800円/年 指導者1人：1,850円/年 団体保険 各クラブ：約100,000円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営・活動図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

・統括責任者（各クラブ地域コーディネーター 3名）

役割：各種目の指導者との連絡調整を実施

他クラブで活動したい会員（中学生）に対してのサポート

指導者の質の向上と量の確保に向けた取り組み

・運営スタッフ 5名

役割：社会体育施設での合同練習時の施設調整

指導者謝金関連業務・相談窓口

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

鯖江市では令和7年度までを併存期間とし、令和8年度完全実施に向け、中学校区にある総合型地域スポーツクラブを運営主体とし、中学校施設を中心とした活動を実施。

様々なニーズ対応は、公民館等と協議し、令和8年度からできることの模索・協議を今年度より開始。

会員の中学生は、三クラブのどの種目にも参加できる体制を整え、令和8年度以降、三総合クラブが持続可能な運営ができる体制を整える協議を開始。

取組の成果

○関係団体との調整

鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会において、関係団体への連絡・報告等の調整・連携

○鯖江市役所内関係課との調整

関係課との調整・・・スマートロック・校舎内シャッター設置等

○小中学生・保護者・中学校教職員とのつながり

鯖江市内小中学生（小4～中2）、該当保護者に対しニーズ・アンケート調査を年度末に実施・公表
教職員への意識調査を年度末に実施

○運営団体の育成

令和5年度にマネジメント等の強化を図るため、令和5年度より全総合クラブのJ S P O登録団体、今後、認証登録できる団体への育成を図る（現在クラブ再編に向け動き始めており、再編検討会を設置）

○「鯖江市中学校部活動および地域クラブ活動方針」を令和5年度末に策定し、今後の方向を示す。

○顧問と地域指導者の連携・・・地域コーディネーターによる種目ごとの打ち合わせ会の実施

総括コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・運営団体である総合クラブへの指導・助言、アンケート調査
- ・市役所関係所管課、公民館主事との協議・調整
- ・市内関係団体への周知（単P、各学校には地域CD）
- ・運営団体三クラブの持続可能な運営体制の整備（三クラブ連絡協議会）
や新たな会費設定に向けた協議

今後の課題と対応方針

令和8年度完全実施に向けた周知や協議に多くの労力が必要である。

周知に関しては、様々な会合や全世帯への配布物をするなど行っても、聞いている等の連続で、理解が深まらない状況である。

新しい動きであることや他市町と並列に動いていない、正解は誰にも分らない状況での協議や活動は理解を得るのに非常に労力が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

【質の保証】

鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会において、令和7年度より公認資格取得への支援を決定。（登録バンク）

【量の確保】

関係団体への説明・依頼を継続的に実施。地域CDが地域情報をもとに指導者との面談等を実施。

登録指導者の人数

163名

登録指導者の年齢構成

10代	0名
20代	25名
30代	39名
40代	45名
50代	36名
60代以上	18名

登録者属性

併存期間においては、教職員で協力いただける方には兼職兼業届を提出していただいた。

地域指導者は、スポーツ協会員、元スポーツ少年団指導者など様々な方が登録している。

種目

種目による偏りがあり、民間クラブ等がある種目やクラブ対抗戦を実施している種目は、試合に出場することが目的となっており、気軽に誰でも参加できる趣旨での指導者はなかなか見つからない。

資格有無

登録指導者のうち、有資格指導者は26/162と非常に少ない状況である。

※令和7年度より資格取得支援予定

取組の成果

令和6年3月に「中学生の活動方針」を策定

方針では、平日の学校部活動と休日の地域クラブ活動におけるガイドラインならびに指導者の質の保証と量の確保を明記。

○学校部活動と地域クラブ活動が連携・協働・融合した活動となること

○指導者は、学校と地域（各SC）が認めた指導者であること

以上の趣旨に合意できる指導者となっている。

今年度、総合クラブに指導者登録を希望した方がいたが、当事者の指導歴で勝利至上の指導を行っていた経緯があり、クラブの理念・学校部活動の目的から逸脱することから、地域や学校から認められない等の事例が発生した。

指導者関連

	地域指導者				教員（兼職兼業）			
	運動部		文化部		運動部		文化部	
	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6
さばえSC	26	37	2	5	30	33	3	4
鯖北CSC	17	23	2	3	36	34	6	5
東陽SC	21	22	0	0	12	14	1	2
	64	82	4	8	78	81	10	11

R6.12末現在 鯖江市地域クラブ登録指導者推移

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

昨年度末に、中学生（ジュニア）の指導はどうあるべきか、スポーツ・文化とまちづくり、鯖江市の休日部活動の地域移行の展望など、現場の指導者にはまだまだ周知が行き届いていないこと、運営側と現場の指導者側がじっくり話し合う場を設けることなどを目的に指導者研修会を（特）さばえスポーツクラブが実施。

他のSCの地域CDや関係者も同席し、今後の指導者研修会の開催について考えていただき機会をセッティング。

令和6年度は3月14日に3クラブで開催予定。内容は、有名指導者（ジュニア層に必要な指導、コミュニケーション、苦労話）による講演、種で平日と休日の活動に違和感を持たない指導についてを協議予定。

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 令和6年3月12日（火）
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 84人

（特非）さばえスポーツクラブ主催研修会

鯖江中学校は、部活動関係者がほぼ出席し、地域クラブ活動の展望等を理解。

地域指導者は、部活動顧問と指導や連携について協議
現場指導者の悩みや問題点などを運営側の聞き取り

受講者の声

【現在の指導についての感想、意見、疑問】

- ・中学生が大人になり指導者として帰ってくるような指導を心掛けたい
- ・子ども達が楽しい、面白いと思う指導を心掛けて指導している
- ・女子指導には、女子の指導者が必要だと感じている

【今後に向けて必要なこと、考え方】

- ・スポーツの楽しいには、勝利、一つの技の習得、仲間との交流など様々であるので、それぞれの楽しみを経験できるようにほめて育てる指導が大切だと思う。
- ・中学校指導を地域指導者として20数年続けているが、無理をせず、個々の能力に応じた指導をボチボチと取り組むことが子ども達がスポーツを続けることにつながっていくのかなと思う。

今後の課題と対応方針

研修会後、保護者が中心となり、強化目的（来年度は全国大会に行けるチャンスがある）での活動がしたいと地域クラブを立ち上げ、近隣自治体の中学生を入れたクラブ活動を実施する種目が出てきた。

各総合クラブには、市内中学生を中心とした、持続可能な活動および方針に沿った活動を継続的に取り組むよう依頼。

※令和6年度は、令和7年3月14日 三クラブ合同開催予定

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

説明・依頼団体

○鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会

・スポーツ関連団体

・障がい者団体

○鯖江市地域クラブ活動推進協議会

・スポーツ関係団体

・文化協議会

○鯖江市スポーツ協会

○鯖江市スポーツ推進委員

○鯖江市スポーツ少年団

○鯖江市PTA連合会

○鯖江市内中学校PTA(単P)

○鯖江市社会教育委員会

○鯖江市ライオンズクラブ

取組内容

各種団体の総会や会議など、機会あるごとに鯖江市の中学校部活動地域移行や指導者、連携、今後の見通し等の説明・依頼を継続して実践。

・鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会

概要説明による理解、今後の見通しの中で、各団体が何ができるかを具体的に提示し、依頼

・鯖江市スポーツ協会（種目協会）

R5：概要説明、指導者紹介を依頼

R6：指導者紹介を再度依頼

・鯖江市スポーツ推進委員会

地域のコーディネーター、県外実践のゆるスポーツ活動紹介障がい者スポーツ資格取得支援予定

・鯖江市スポーツ少年団

JSCO登録が総合型地域SCとスポーツ少年団が統合する予定であり、活動理念の共有が必要であることの説明

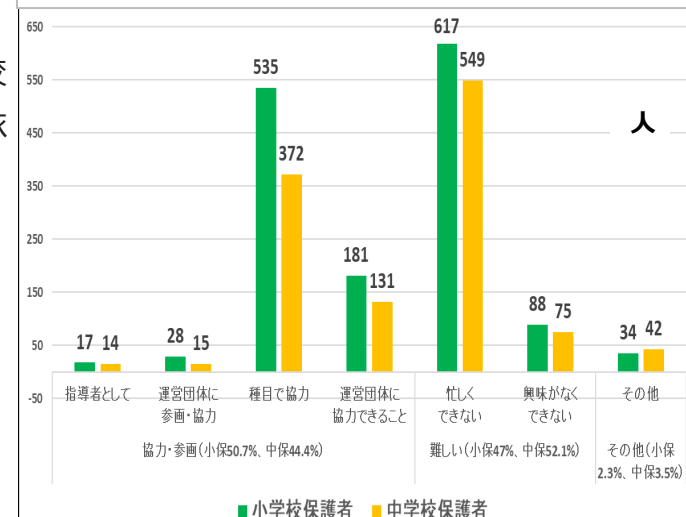
・PTA関連

概要説明、アンケート調査結果提示、指導者紹介依頼

・その他団体

概要、今後の見通し説明、指導者紹介依頼

休日の地域クラブ活動での保護者や地域人の立場で参画や協力について【小中保護者】



協力・参画してもよい
(小保50.7%、中保44.4%)

難しい
(小保47%、中保52.1%)

令和5年 鯖江市児童生徒アンケート調査結果

今後の課題と対応方針

団体への依頼ではリアクションは薄いですが、その後、個別に話をすると、スポーツ協会では個々に指導者を紹介していただける種目団体も出てきた。

保護者の中から、指導者として登録する方が出てきた。

継続した説明、依頼等が必要と感じている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

鯖江市の地域クラブ活動の取り組みは、市内の子どもたちの活動を中心に行っている。

運営団体である3つの総合型地域スポーツクラブは、中学校区の子どもの登録、市内活動を主として取り組んでおり、市内どのクラブ活動にも参加できるシステムでの活動となっている。生徒や保護者、指導者間などのつながりで市外生徒が希望した場合でも受け入れることとなっている。

各自治体の役割

鯖江市は、まずは休日の学校部活動の地域移行、次にやりたい種目やまちづくりの観点で、何をしていくかを主に取り組んでいる。

従前から平日・休日に活動している地域クラブ活動は、今までの実績のもと活動していることから、活動への支援や周知等は行っていない。

鯖江市は近隣自治体との連携はなく、独自に取り組んでいるため、他の自治体との連携はなく、役割はない。

移動手段

鯖江市は、中学校施設を主な会場としており、中学生は基本、徒歩と自転車での移動とし、休日に子どもを送迎できない家庭でも参加できることを念頭に取り組んでいる。ただ、保護者送迎できる家庭環境のところは送迎することもある。

市外会員の中学生は、保護者送迎により活動している。

事務局運営の方法

市内三クラブは市内中学生においては、校区のクラブに登録することとし、市外中学生については、市内中学生と同様の対応をしており、特別な対応はしていない。

ただ、入会時に保護者送迎等の有無は確認している。

取組の成果

市内中学生が市外の地域クラブ活動に参加していることから、市外中学生を受け入れる体制づくりの重要さは認識している。

家庭環境が違う子どもたちが、休日の活動を市内外で選択できる場を作ること大切であり、自治体での連携は必要であると感じている。

今後の課題と対応方針

- ・近隣市町と本市との活動内容や考え方の違いにより、他市町と広域で連携することは現段階では難しいが進める必要がある。
- ・自治体間の調整役が不在である。
- ・地域クラブ活動には市の税金が投入されており、他自治体の子どもに対し、新たな会費設定が必要との声もある。

	さばえSC	鯖江北CSC	東陽SC
			剣道
1年生	0	0	0
2年生	1	0	2
3年生	0	0	2
備考			越前町2 越前市2

	硬式野球	軟式野球	水泳	サッカー	バスケ	体操	バドミントン	バレー	硬式テニス	チアダンス	ソフトテニス
1年生	5	3	2	8	3	1	1	1			
2年生	2		3	12	3					1	1
3年生	2			11	2			2	2	1	
計	9	3	5	31	8	1	1	3	2	2	1

R6.12末現在 鯖江市外中生活動状況調査

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組の成果

イベントの開催（活動の周知を含む）

(1)総合型地域スポーツクラブの活動に対する理解を深めるイベントの開催

○バブルにタイムスリップ

（特非）さばえスポーツクラブイベント（会員・非会員関係なく参加可）

(2)中学生がやりたいことを自ら企画し、実践するイベントの開催

○「サバーフェスティバル」

（特非）さばえスポーツクラブが主体となり、鯖江中学校が大規模改修前に、現役の中学生が企画・運営したイベントを地域住民に対して開催し、学校の思い出を作る。

○「とどけ青春！」を三スポーツクラブで、中学生が企画・運営する教室等の開催企画委員を募集

ダンスや料理教室など現役中学生がやりたいことを企画する委員を募集したが、参加を希望する中学生はいなかった。

今後の課題と対応方針

クラブイベントの「バブルにタイムスリップ」のイベントには幼児や小学生・保護者、一般の方が多く参加したが、中学生や高齢者の参加は少なかった。

反省会では、全世代をターゲットにしたイベント開催は難しく、今後、三クラブでどのようなイベントがよいかも含め、協議が必要であるとの認識が共有され、次年度もクラブイベント開催に向け工夫して取り組むこととなった。



令和6年度 鯖江市総合クラブチラス
さばえスポーツクラブチラス

中学生が企画・運営するイベントの開催は、学校の大規模改修を機に取り組むことには、多くの中学生が関わることができたが、中学生が自ら企画して休日に実施する企画には、消極的であることが分かった。次年度は、中学生がもっと気軽にできる内容での実践を試す工夫が必要だとの意見をもとに取り組む予定である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①（会費設定、生活困窮家庭への支援）

取組事項

鯖江市の考え方（会費設定・生活困窮家庭の中学生が気軽に参加できる）

鯖江市内の中学校区にある総合型地域スポーツクラブは、令和3年度に年会費6,000円の統一会費を設定。令和8年度地域クラブ活動の完全実施時より、地域クラブ活動のみ新会費での活動を目指している。（令和7年度にクラブ再編、会費設定の委員会で協議し、令和7年度前半に決定予定）

生活困窮家庭への支援については、総合型地域スポーツクラブ設立時より、支援の議論をしていた。ただ、個人情報取り扱い、困窮家庭の線引き、事務手続き等のハードルが高く見送った経緯があり、現在に至る。

令和5年度より、休日は地域クラブ活動への参加を促したことから、教育委員会において、生活困窮家庭を準要保護家庭として支援している。

条件は、教育委員会が準要保護と認めた家庭であり、中学生が総合型地域スポーツクラブ会員で、学校部活動の種目や他の種目に参加している家庭とした。

運営団体と学校・教育委員会の連携

【会費設定】

○基本的な考え方（有識者・市教委・三クラブ・学校での委員会設置）

令和7年度に、令和5.6年度中学生加入状況や保護者アンケート結果・他町の会費情報・持続可能な運営や公的支援等を考慮し、試算。

令和7年度前半に会費を決定し、後半に保護者等に周知予定

【生活困窮家庭への支援】

○基本的な考え方

・学校部活動の地域移行の影響で生活困窮家庭の子どもが地域クラブ活動に参加できないことを防ぎ、行政・地域・学校で支えていく体制を構築する。

○教育委員会：準要保護家庭調査、該当家庭決定

生活困窮家庭支援経費の決定

スポーツクラブ会費	6,000	個人支出（PTA会費別）		
保険料	800			
計	6,800			
サッカー	登録料	2,000	サッカー	55,800
	遠征費	18,000	バド	45,800
	ビブス等	20,000	剣道	18,800
	消耗品	9,000	バスケ	50,300
計		49,000	平均	42,675
バドミントン	ユニフォーム	30,000		
	消耗品	9,000		
	計	39,000		
剣道	遠征費	12,000		
バスケットボール	登録料	1,500		
	遠征費	12,000		
	消耗品	30,000		
	計	43,500		

※令和3,4年モデル事業時に、該当種目に対し、1年間の家庭負担額を調査し、生活困窮家庭への支援経費を決定した。

令和4年度 モデル種目個人支出調査より 鯖江市

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②（会費設定）

取組

【委員会の設置】

鯖江市総合型地域スポーツクラブ組織再編委員会

- ・中学校部活動の地域展開を契機に、市内3つのクラブを今後どのように再編していくか（クラブ再編）
- ・令和7年度末協議会において、令和8年度以降の持続可能な地域クラブ活動会費を設定し、協議会承認後、保護者に周知することが決定

【会費設定参考データ】

- ・令和5, 6年度中学生加入状況

R5:休日活動（部活動加入⇒地域クラブ活動加入）89.1%

R6:休日活動（部活動加入⇒地域クラブ活動加入）90.8%

- ・保護者アンケート

地域クラブ活動月会費

- ・県内他市町情報の収集

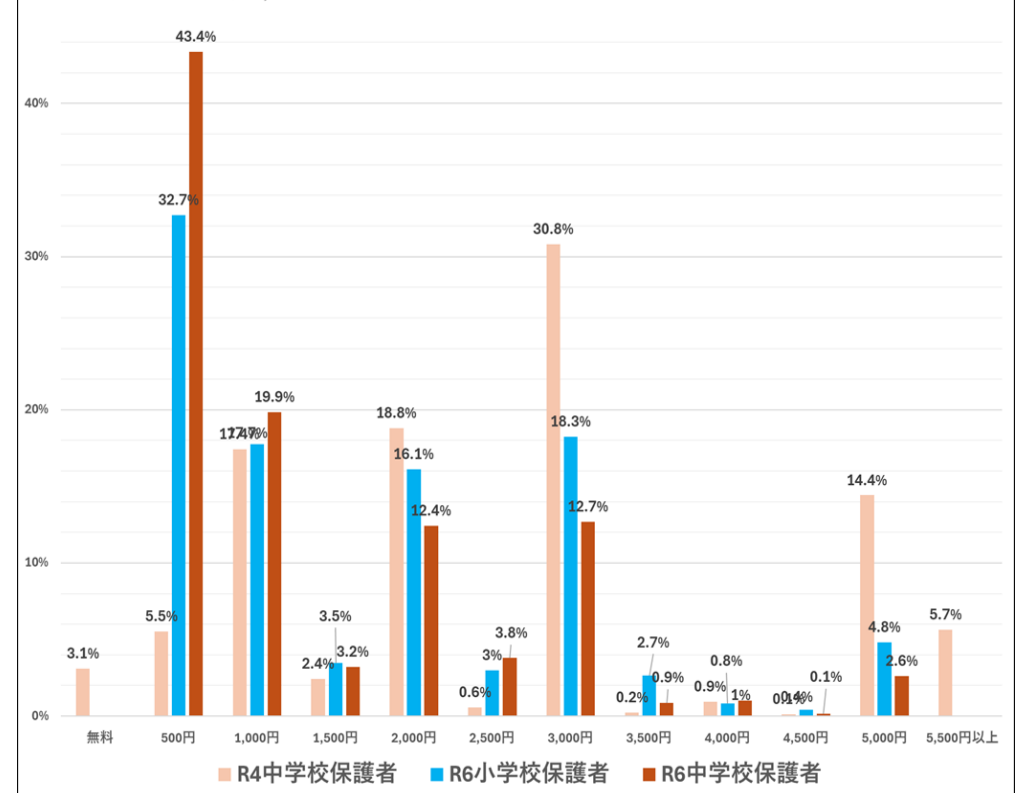
県内他市町の会費設定情報を聞き取り、参考意見とする

今後の課題と対応方針

持続可能な運営をするためには多くの会費が必要だが、保護者負担が大きくなることにより、参加を戸惑う家庭が出てくる等の狭間の中での協議が予想される。

委員会では、運営団体の運営・指導者謝金と行政支援、その他収入源

【R4,6小中保護者】地域クラブ活動の月ごとの会費



等を模索しながらの協議となる可能性がある。

試算イメージにおいては、クラブの自立を考慮し、クラブ意見を尊重した流れの中で作成し、協議を進める予定。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

地域クラブ活動方針として、中学生が徒歩や自転車で通えるよう、活動拠点を、市内各中学校施設とした。

学校管理規則、学校開放規則の見直しに着手。

学校体育館にスマートロック設置を設置し、中学校区の総合型地域ス

ポーツクラブに休日と夜の施設運用・管理を依頼した。

校舎内にシャッターを設置し、校舎を利用する文化活動（主に吹奏楽）、スポーツ関連種目の更衣室、外競技の雨天時の避難等の場所の提供を目的に設置した。

取組の成果

○スマートロック（令和6年度完全実施）

利用時間帯のみ開閉可能な暗証番号となり、利用する時間にメリハリがついた。

活動日誌（報告）はQRコードで可能となり、利用団体の手間が減った。

○校舎内シャッター

休日の地域クラブ活動が利用できる教室と学校教育活動との同線整備ができた。

○中学校廊下シャッター設置工事

目 的

部活動の地域移行により、休日に開放される教育施設をシャッターで区切り、移動を制限することで部外者の不用意な侵入を防ぐ。

整備内容

両中学校共に各階の廊下に2か所のシャッターを整備する。
シャッターのサイズは概ね、幅1.9m 高さ2.6m
中央中学校 1～4階 計 8か所
東陽中学校 1～3階 計 6か所

（中央中学校）



（東陽中学校）



金）

（設置イメージ図①）



（設置イメージ図②）



令和5年 中学校廊下シャッター設置工事概要 鯖江市

今後の課題と対応方針

○校舎内シャッター

教職員には、休日前は関連教室、シャッター閉・施錠、休日明けの教室・シャッターの開・開錠の作業が増えることとなる。学校とクラブの申し合わせ事項として、令和8年度から完全実施とし、教職員に作業が浸透するよ

う依頼中である。

管理職には、スマートロック、校舎内シャッター設置により、学校の鍵の集中管理ができることにより、教職員が休日学校へ来ての業務することなど業務管理ができることを伝えた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

鯖江市の休日の地域クラブ活動（陸上）では、市内陸上競技場を活用している。土曜日の活動は、総合型地域スポーツクラブの小学生・中学生・地元高校生陸上部・他地区の高校陸上部・一般など多くの方が利用しており、危険回避のため、小学生が競技場外で活動することもある。

令和4年度からは、中高の陸上関係者により連携した活動は徐々に出てき

ているが、問題点も多くあることから、鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会において、令和7年度からは、土曜日午前を市内総合クラブ小中学生と地元高校陸上部の専属利用とし、鯖江市の小中高校生が交流できる場、一貫した指導ができる場を設定していくこととなった。

取組の成果

陸上関係者からは、小中高校の指導者が連携し、施設の有効活用ならびに高校生が指導する場の設定など、様々な活動をしたいとの要望があった。

少子化の流れの中で、陸上を好きになる子どもを増やしたいとの取り組みが、他の種目にも波及するようにしていきたいと考えている。



R4,10,30 福井新聞

指導者の属性や配置の工夫

○指導者の属性

- ・総合クラブ指導者
小中学校対象指導者

- ・地元高校陸上部顧問

○工夫

- ・総合クラブ指導者と高校陸上部顧問との協議に総括CDも入り、活動内容について協議

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

一貫指導の考え方としては、小中高校生の交流もあるが、指導者同士が理念の共有や世代をつなげることも大切な要素であると考えている。

陸上指導者間での協議では、小中世代での活動に高校顧問が指導に入る、高校生からの指導（種目によって）を想定。

ただ、指導者を取りまとめるコーディネーターが必要であるとの意見も出た。

今後の課題と対応方針

一貫指導が持続可能な活動とするためには、小中高校の指導者間を取りまとめ、連携を保つコーディネーターの存在が大切である。

本来なら、種目協会が担うことであるが、市協会にはそこまでの活動を実施しておらず、人材不足である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

鯖江市は、令和8年度完全実施に向け、令和5～7年度を併存期間としており、令和6年度は、準備期間の途中である。

令和8年度完全実施の姿（運営体制、指導者の質の保証と量の確保、各種目指導現場、中学生のやりたい種目への参加、中学生・保護者への周知等）は、現在、三つの総合型地域スポーツクラブ再編の動きや諸活動での市役所内関係課との調整もあり、目指すものがあっても具体の取組には至っていないが、徐々に様々な形で成長していくものと捉えている。

ただ、進行中だからこそ、様々な団体や立場からの意見を吸収しやすく、よりよい運営体制や指導者での協力を多く得られることができ、将来にわたり地域クラブ活動が充実し、ステップアップができるのではないかと考えている。

また、中学校部活動の地域移行が健康・スポーツ振興のきっかけとなり、他の世代の活動にも注目が集まり、様々な施策やまちづくりを打ち出すチャンスが出てきている。

本市においては、20数年前の総合型地域スポーツクラブ創設時と同様に市や関係団体にウェーブが起きており、運営団体である総合型地域スポーツクラブが改革を余儀なくされ、現在に至っている。令和6年度は、様々な団体、特にスポーツ関連団体の取り組みを見直すチャンスが訪れたとの考えで取り組むことができるようになってきた。

●成果の評価

○鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会 提案 令和7年度実施項目

・アプリを使った健康・まちづくりポイント制度の創設(高齢者、働く・子育て世代、女性等)

※将来、地域クラブ活動指導者、運営団体関係者にポイント付与できないか

・指導者資格取得支援制度の創設

公認指導者資格取得支援・・・地域クラブ活動、スポーツ少年団

障がい者スポーツ資格取得支援・・・スポーツ推進委員

※将来、地域クラブ活動において、障がい者指導や交流等ができないか

・地域クラブ活動が使いやすい体育施設（学校、社会体育施設）への推進

規則見直し：学校管理規則、学校開放規則

※地域クラブ活動、学校開放事業において、運営団体に中学校施設管理・

運用を依頼

休日に市内小中高校生が優先利用（陸上競技場）

※一貫指導ができる場の提供

●今後に向けて

鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会では、スポーツでのまちづくりに関して様々な意見が出ている。スポーツに参加するだけでなく携わる（指導、運営、サポート）ことはまちづくりであるとの認識が持てるシステムが必要なのではとの意見が出てきており、次年度以降の議論が非常に大切になってくる。

地域クラブ活動を起爆剤として、様々な世代の人たちがスポーツに親しみ、鯖江市の若者が自慢できる鯖江市となるよう取り組む予定である。

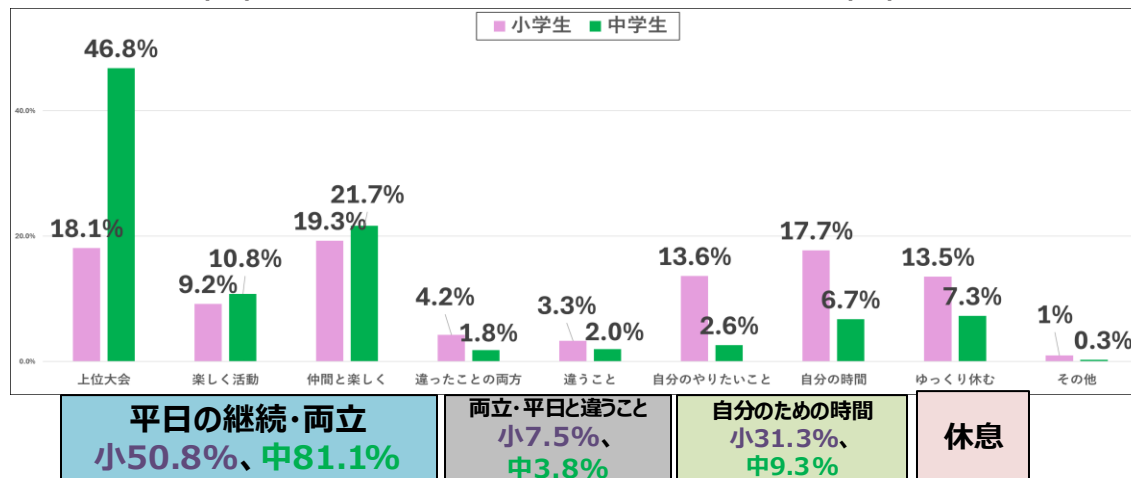
2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

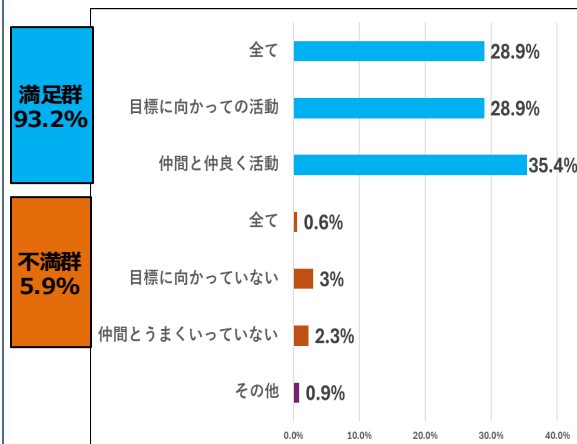
●鯖江市小中学生・保護者アンケート調査結果（R6.12～R7.1）

対象：小学校4～6年生とその保護者、中学校1,2年生とその保護者

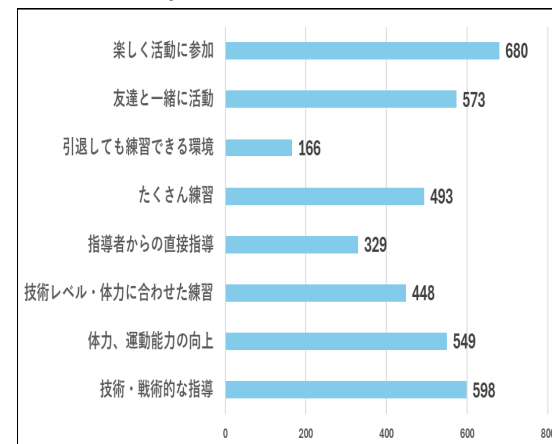
Q.【小中学生】(小)中学生になったら、休日どのように過ごしたいか、(中)休日の過ごし方



Q.【中学生】平日の学校部活動について



Q.【中学生】休日の活動に期待すること
(複数回答)



●参加者の声（スポーツ・文化共有）

中学生

- ・専門的な指導を受けることができる。
- ・平日と変わらないので分からない（指導者・場所）
- ・仲間といっしょに頑張ることができる

中学生保護者

- ・変わらない状況で会費を支払う意味が分からない。
- ・世の中の流れであり仕方ない。子どものやりたいことをやらせたい。
- ・地域指導者とうまくかみ合わないことがあり、子どもから休日の活動を辞めたいと相談を受けた。スポーツクラブでは、他クラブでの活動も認められており、休日は他クラブの違う種目をしてみてはと助言し体験したところ、今では毎週楽しみに参加するようになった。

指導者

- ・学校の先生方との話し合では、引率・指導・大会協力など多くの業務があることが分かった。当初は、技術・戦術指導だけかと思っていたが、大変であることが分かり、指導を引き受けたことに戸惑いがある。
- ・教員のOBを地域でもっと探してはどうか。

指導者（陸上・地域指導者）

小学校から高校までの子どもたちが一斉に練習する形は非常に良い。小学生やその保護者が中高校生の練習する姿を見てあこがれや安心感が持て、陸上を続けたいという子どもが増えるのではないかと期待している。

2.実証内容と成果③

広報・周知資料

周知に向けての広報は、鯖江市の会議(鯖江市運動・スポーツ推進計画推進委員会、PTA連合会、スポーツ協会、スポーツ推進委員会等)では、総括コーディネーターにより説明。(資料:国の部活動地域移行資料)

学校行事(入学式、入学説明会等)や学校PTA関連集会(PTA総会等)には、該当地域である総合型地域スポーツクラブが中心となり説明を実施。

【地域クラブ活動ってどんなこと?】

もっと上達したい! チャレンジしよう!

休日は地域クラブへ行こう!

鯖江市では、総括コーディネーター、各クラブに1名の地域コーディネーター、文化コーディネーターを設置し、行政・学校・クラブが連携し、平日は部活動、休日は地域クラブ活動ができる環境整備を進めています。

1 指導者が技術面でサポート

地域指導者が自らの経験ノウハウをもとに、技術を教えてくれるよ。

2 クラブ加入は任意

クラブ活動はやりたい子が来るというのが基本。地域クラブ活動は年間を通しての活動です。

3 総合型地域スポーツクラブでは選んだ種目参加のほかにイベントや特典もあるよ。

3クラブでの合同練習やイベントは楽しいイベントも企画予定です!

会員登録

自分の学校のスポーツクラブに入会ください。各クラブの受付窓口でお手続きをお願いします。

参加する種目選び

自分の学校にある種目のほか、参加したい種目が校区外のクラブにある場合はご相談下さい。

クラブを楽しもう

参加する種目以外に、様々な企画を年度途中より開催できるよう準備中です。ホームページ等を見て下さいね。

参加費 年会費: 個人6,000円 保険料: 800円(必須)
 詳しくは下記の各校区クラブにお問い合わせください
 (クラブでは、指導者として関わって下さる方を探しています。お気軽にご連絡ください。)

鯖江市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

さばえスポーツクラブ 鯖江中学校区 ☎ 51-8618

鯖江北コミュニティクラブ 中央中学校区 ☎ 51-8780

東陽スポーツクラブ 東陽中学校区 ☎ 29-1040

休日の部活動地域移行について鯖江市の取組ウェブサイト



特定非営利活動法人 **さばえスポーツクラブ** 2024

さばえスポーツクラブは2000年9月に設立、2002年5月には法人格を取得し、今年で24年目を迎えています。子どもからお年寄りまで世代を超え、様々な競技活動に参加できるスポーツクラブです。会員会費と行政の補助による運営をし、鯖江中学校を活動拠点として、学校・地域・行政が連携する、持続可能なクラブを目指しています。自由に楽しく気軽に参加できて、互いに教え合い、学び合い、いつでもできる交流クラブという理念のもと、スポーツ・文化にふれる機会を提供し、地域作りに寄与することを目的に活動しています。また、子どもの健全育成を図る活動にも力を入れています。

Topic01 部活動地域移行「地域クラブ活動」状況




令和6年10月現在で、中学生地域クラブ活動は18種目が土曜または日曜、祝日に、鯖江中学校、丹南キャンパス、鯖江市内スポーツ施設で活動しています。指導者数は顧問の先生のご協力36名、地域指導者が35名です。令和7年度末までが部活動とクラブ活動の併存期間として、学校とクラブが連携しながらいろいろな課題と向き合い、令和8年度ではクラブ主導が可能になるよう取り組んでいます。鯖江市内3つの総合型クラブによる連絡協議会開催での話し合いをはじめ、総括コーディネーター・地域コーディネーター・学校担当の先生たちを中心に、鯖江市内3つのクラブが足並みを揃え、中学生のより良い活動を目指し基盤作りに尽力しています。さばえスポーツクラブの地域クラブ活動は強制加入ではありません。競技力の上達を望む、競技を楽しむ、または身体を休める、など自身の選択を自由に出来るクラブ活動でありたいと思っています。

※鯖江中学校は令和7年、8年と校舎大規模改修に入ります。そのため、地域クラブ活動時鯖中体育館・武道館・グラウンドの使用ができません。今今、生徒が通える範囲の代替会場を、鯖江市教育委員会と協議中です。

Topic02 クラブ会費について

地域クラブ活動に参加するには、さばえスポに入会していただくことになります。年会費6000円と保険料800円が必要です。会費は活動費(消耗品などの補助)・人件費・事業費(イベントや研修・事務管理費などのクラブ運営に使わせていただいています。今年度は指導者への謝金や人件費の一部を補助金で対応していますが、現状の会費では指導者謝金の支払いに相当する費用を捻出するには大幅に不足します。令和8年度以降、休日活動が完全移行となることを想定し、来年度は会費の見直しをする予定となっています。より良い環境整備に努めていき、できるだけ多くの中学生に加入していただけるよう取り組む所存です。鯖江市に対しても3クラブで様々な支援を訴えていく予定ですので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

☆さばえスポーツクラブ会費☆

年会費: 個人会員6,000円 ファミリー会員15,000円
 (同世帯家族何名様でも可)
 スポーツ安全保険料: 中学生以下800円(加入必須)
 ※種目によっては別途ボール代等の徴収、遠征費、月謝がかかります

☆問い合わせ☆

〒916-0045 鯖江市宮前2丁目9-1 スポーツ交流館内
 ☎0778-51-8618 受付時間9:00~17:30
 定休日: 日曜、祝日、火曜(スポーツ交流館休館日)
 ※火曜が祝日の場合は翌日が休みです HPのお知らせをご覧ください

Instagram

※さばえスポでは、地域クラブ活動やスポーツ・文化を通じた地域貢献に興味のある方を広く募集しています!
 子ども達の活動環境を、クラブ参画して整えてみませんか^^!
 ぜひ、さばえスポへご一報ください!

Topic03 鯖江中学校とさばスポの連携活動

つつじマラソンでは、毎年手荷物預かり所のボランティアを鯖中生徒とさばスポの理事達が一緒に、大会の下支えとして担っています。

また、2年生の職場体験の受け入れでは今年も健康教室の体験や総合型地域スポーツクラブについてなど、地域スポーツを学習してもらいました。

Topic04 体育支援「ダンス講師派遣」

ダンス必修化になってから12年が経ちます。当時学校現場ではダンス授業には先生方の困惑が見られました。さばスポは、その現場の声を聞き取り、ダンス専門の講師を鯖江中学校の体育授業に派遣しました。以来、鯖江市内12校の小学校と3校の中学校に講師派遣をしています。どの学校からも、専門的指導を直にしてもらえるのは多いに意欲があると好評いただいています。学校寮でもダンスは欠かせないものになっています。

●さばスポの会員証をご提示いただくと、各施設にて次の特典が得られます

鯖江市スポーツ交流館
 ...アリーナ・アスレチックジム使用料が無料

鯖江市総合体育館
 神明健康スポーツセンター
 ...体育館が使用料無料

※各施設無料回数は合わせて10回まで
 ※会員カードの特典はご本人のみの利用

アスレチックジムは中学生は保護者同伴で利用できます。



2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【陸上競技 地域クラブ活動中】



【剣道 地域クラブ活動中】



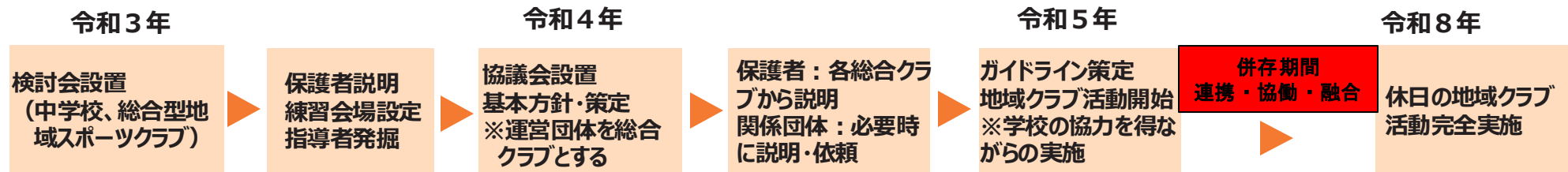
【軟式野球 地域クラブ活動中】



【軟式野球 地域クラブ活動中 練習試合前ミーティング】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

市内中学校
中学校区の総合型地域スポーツクラブ

●経過

モデル事業において、検討会を設置し、中学校区の総合クラブに運営を依頼

●実施にあたって生じた課題

中学校側の理解が乏しことや会費が発生することへの周知不足等での不安があり、当初は地域と学校間でなかなか協議が深まらないこともあった。

●実施内容、工夫した点 等

国の施策、今後の見通しを少しずつ説明し、事業への協力・理解を得られるよう進めていった。

●ステークホルダー

スポーツ関連団体
スポーツ協会（種目協会）

●経過

指導者発掘のため、様々な団体に市担当者と総合クラブで説明・協力依頼を実施

●実施にあたって生じた課題

各団体の目的が指導者育成ではないこと、中学生を指導できるものがない等拒否されることが多かった。

●実施内容、工夫した点 等

団体では拒否されても、個別に話すると指導者を紹介してくれるところもあり、指導者を個別に依頼していった。

●ステークホルダー

市内中学校
中学校区の総合型地域スポーツクラブ

●経過

令和5年度から7年度末までを学校部活動と地域クラブ活動の併存期間とし、3年間の準備期間を設定。その間に、運営団体は自立できるよう様々な課題解決を実施することになった。

●実施にあたって生じた課題

市内中学生のニーズが市内の他総合クラブにあることもあり、連携していく必要が生じた。
運営が大変であるとのことで、三総合クラブ再編の協議がスタートした。

●実施内容、工夫した点 等 令和5～7年度

子どもたちが平日と休日の活動に混乱が生じない活動

・令和5年度（連携時期）

学校が主体となり総合クラブが連携する地域クラブ活動

・令和6～7年度

（連携・協働時期）

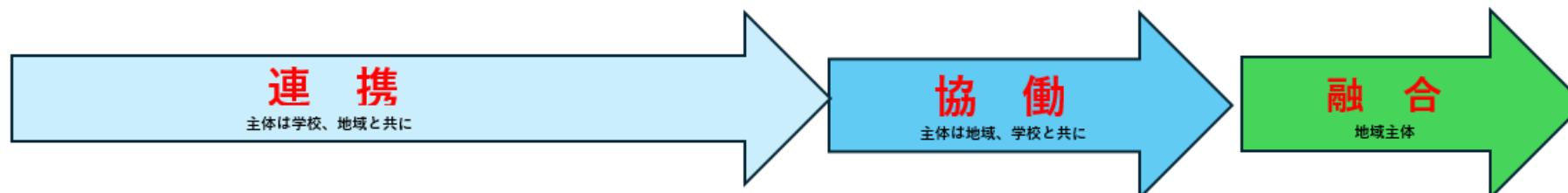
学校と総合クラブが主体となり、ともに地域クラブ活動

・令和8年度（融合時期）

総合クラブと地域が主体となり地域クラブ活動

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



併存期間（指導者は教員で協力了解の方に協力依頼）				休日完全実施		
R3国モデル事業	R4国モデル事業	R5県補助事業	R6国実証事業	R7	R8	R9
検討会（中学校、SC）	検討会（中学校、SC）	協議会				
鯖中：剣道、柔道 中央：サッカー、バド 東陽：男バス	鯖中：＋ホッケー、女バス、陸上 中央：＋剣道、女バス 東陽：＋女バス	鯖中：運動16種目、文化2種目 中央：運動17種目、文化2種目 東陽：運動11種目、文化1種目	鯖中：運動16種目、文化2種目 中央：運動17種目、文化2種目 東陽：運動11種目、文化1種目	鯖中：運動16種目、文化2種目 中央：運動16種目、文化2種目 東陽：運動10種目、文化1種目	休日地域クラブ活動完全実施 平日地域クラブ活動について協議	
	総括CD配置	総括CD・地域CD・文化CD配置				
・市教委運営	・各スポーツクラブ運営		・スポーツクラブ組織再編委員会		・新しい組織での運営	
・検証・R4総合型地域スポーツクラブに運営を依頼	・児童生徒、保護者アンケート調査 ・基本方針策定 ・文化関連も取組むことの合意	+教職員意識調査 中学校部活動および地域クラブ活動在り方方針策定 文化庁関連地域移行開始 ・小中学校スマートロック設置 ・中学校校舎内シャッター設置 ・困窮家庭への支援（教委） ・新たな会費設定協議 （現在：年会費6,000円＋保険料）	+会費調査、教員の協力意思確認			
運営主体（中学校区の総合型地域スポーツクラブ） ・特定非営利活動法人さばえスポーツクラブ （鯖江中学校区）2000年（H12） ・鯖江北コミュニティスポーツクラブ （中央中学校区）2007年（H14） ・東陽スポーツクラブ （東陽中学校区）2006年（H14） ※中学校 体育館・武道館・グラウンド（ナイター設置）			・正式運用			
			・段階的な運用			・正式運用
			登録者・指導者数、指導者謝金、運営費等を見て試算	・新たな会費決定	・新たな会費開始	
				中学生企画・運営 休日体験会の開催	公民館を活用した活動	